

尼崎の森中央緑地 環境学習マニュアル

令和5年3月改訂

令和5年3月

尼崎の森中央緑地パークセンター



目 次

環境学習マニュアル

1. 尼崎の森中央緑地における環境学習の目的	1
2. 注意点・緊急時の対応等	2
3. 環境学習の基本構成	3
4. モデルプラン	4
5. マニュアルシートの見方	7
6. 環境学習プログラム	8

【資料】

森で活動するときの注意点	4 1
No08「森の探検隊」観察シート	4 3
No10「葉っぱの観察」観察シート	4 6
No12「苗木の家族さがし」探検シート作成例	4 9
No20「葉のステンドグラス」台紙型紙	5 2
No21「葉のカードづくり」台紙型紙	5 4
No23「ネイチャーゲーム 私は誰でしょう」動物カード	6 1
No24「生き物クイズ」解答用紙	8 0
No25「日本一大きな木を作ろう」解説パネル	8 3

1. 尼崎の森中央緑地における環境学習の目的

目的

尼崎の森中央緑地は、尼崎の臨海部に水と緑が豊かな自然環境を創出し、自然と人が共生する環境共生型のまちづくりをめざす「尼崎 21 世紀の森構想」の拠点のひとつです。

環境学習では、子どもたちに、尼崎の臨海部の歴史を伝えるとともに、多様な生き物を育む自然に触れ、その楽しさを知り、自然を守り共に生きる心を育むことを目的としています。

○“成長する森”ならではの多様な自然があります

みなで 100 年かけて森づくりを行っている尼崎の森中央緑地には、タネ、苗、小さな森、育ってきた森といった森の成長段階や環境の違いによって、多様な自然にふれることができる特別な環境があります。

○楽しみながら生物多様性への理解を深めるプログラムを提供しています

尼崎の森中央緑地では、成長する森で出える生き物とのふれあいを通じて、子どもたちの感性を刺激し、生命や自然の営みへの驚き、自然を大切に思う心を育み、楽しみながら生物多様性への理解を深めるための環境学習を提供しており、その学習を、環境学習コーディネーターがサポートいたします。

○かやぶき民家では、森と人が共生する持続可能な「昔の生活体験」プログラムもあります。

○本マニュアルでは、環境学習を考える際の参考としていただけるよう、プログラムのねらい、季節、対応人数、所要時間、モデルプランなどを紹介しています。また、ご自身でプログラムを実施される場合の参考になるよう、観察シートなどを資料として添付しています。

○来園前の事前学習など、パークセンタースタッフが出向いて行う出前授業ができるプログラムもあります。ぜひご相談ください。

○尼崎の森中央緑地では、「アマフォレストの会」「かやぶき民家友の会」などのボランティア団体と協力して環境学習を提供しています。受け入れ団体により、実施内容が異なる場合があります。

申込

尼崎の森中央緑地での環境学習をご希望される方は、巻末の「環境学習申し込みフォーム」にご記入の上、FAX またはメールで送信ください。ご質問などございましたら、お気軽にご相談ください。

野外で自然とふれ合う活動をしていただきたいため、
原則として雨天時は中止としますので順延日をご指定ください。

2. 注意点・緊急時の対応等

服装

○森で活動する時の服装

- ・ 長袖・長ズボン、動きやすい靴、帽子、軍手を着用して下さい。

！服装のポイント

✓ すべらない軍手！

すべり止め付きの軍手やガーゼニング用のグリップ付の手袋など、すべり止め付のものを使用しましょう。

✓ 長そで・長ずぼん！

必ず長そでと長ズボン！ケガやかぶれから身を守るためです。

✓ ぼうし！

熱中症、日焼け対策に、ぼうしをかぶりましょう。

✓ タオル！

汗をかく活動です。タオルは必須。

✓ 運動ぐつ！長ぐつ！

足元は、運動ぐつや長ぐつを活動内容に応じて選びましょう。



注意

○森で活動する時の注意点

- ・ 多様な木が育ち、多様な生き物が暮らす森を目指す尼崎の森中央緑地では、「かぶれる木」や「刺す虫」などに出会うこともあります。
- ・ 日常の管理の中で蜂の巣や毛虫などを見つけたら、その都度対応をしています。根絶することは困難で、またそれは私たちが目指す森の姿とも異なります。
- ・ そこで活動にあたっては被害を防ぐため、また被害に遭っても軽い程度で済ませるため、次のことを必ず守って行動してください。

1. 予防：かぶれたり刺されたりしないために・・・

①肌を出さない

長袖・長ズボン・手袋（軍手）・帽子やタオルを着用しましょう。

②近づかない、触らない

蜂の巣や毛虫を発見したら、近づいたり触れたりせずにすぐに管理者（スタッフ）に知らせて下さい。

2. 対処：万が一かぶれたり刺されたりしたら・・・

①薬を塗る

パークセンターでは被害に遭われたときの応急処置の薬品等を常備しています。

②医師の診察を受ける

症状が改善しないなどの不安がある場合、すぐに医師の診察を受けましょう。

3. 環境学習の基本構成

●尼崎の森中央緑地の特徴を伝えるため、可能な限り次のような構成で環境学習を実施して下さい。
順番は入れ替わっても構いません。

●選択プログラムについては、季節や人数によっては対応できない場合もあるため、必ず下見にお越しいただき、受入側と参加側とで事前に相談するようにして下さい。各プログラムの内容については7ページ以降をご覧ください。

尼崎の森中央緑地について知る

1

中央緑地物語(5分～15分)

必須

- ・ 紙芝居や尼崎臨海部の昔の写真などを使い、臨海部の移り変わりや、森づくりのこだわりなど、中央緑地の特性を紹介する。
- ・ 2回目以降の利用の場合は、見頃の植物や森の生き物などを紹介し、季節の魅力や森の成長について紹介する。



尼崎の森中央緑地で学び・体験する

2

環境学習プログラム(30分～適宜)

選択

- ・ 適した季節、分野、目安時間、対応人数などを参考に、プログラムを選んで実施する。
⇒なるべく、森づくり体験とその他のプログラムを組み合わせるようにする。
- ※希望に応じて、時間の調節や、プログラム数を増やすなどしてください。

4. モデルプラン

モデルプラン① 遠足などにプラス『森のえんそく』

【対 象】 3クラス（90人）

【時 間】 10：30～11：30（1時間）

【プラン】 3クラス一緒に、同じプログラムを実施

	1組 30名	2組 30名	3組 30名
スタッフ			
10：30	あいさつ 「中央緑地物語」 100年の森づくりのお話		
10：40	プログラム① 森の探検隊（NO.8） 探検隊シートに描かれた生き物を、 森を散策しながら見つけます。  見つけた生き物のまとめ		
11：25	終わりのあいさつ		
11：30	終了		

※所要時間について

遠足の滞在時間の中で各クラス単位もしくは全員で、約15分～60分

季節や滞在時間などによって提供できるプログラムはいろいろあります。

ぜひ問い合わせ先まで、お気軽にご連絡ください。

モデルプラン② 半日のプラン「環境体験学習」

【対 象】 3クラス（90人）

【時 間】 13：00～15：00（2時間）

	1組30名	2組30名	3組30名
スタッフ			
13：00	トイレ、荷物を置いて整列		
13：10	あいさつ 「中央緑地物語」 100年の森づくりのお話		
13：20	プログラム① 森の探検隊（NO.8） 探検隊シートに描かれた生き物を、 森を散策しながら見つけます。  見つけた生き物のまとめ		
14：10	プログラム② 苗木の里親探し（NO.12） ポットの中の若い苗を観察し、スケッチ して、森の中から同じ種類の木を 探します。 		
14：50	終わりの挨拶		
15：00	終了		

モデルプラン③ 一日滞在の利用プラン『環境体験学習』

【対 象】 3クラス（90人）

【時 間】 9：30～14：30 （5時間 ※1時間昼食含む）

【プラン】 クラスごとに分かれてローテーションでプログラムを実施

	1 組	2 組	3 組
9：30	トイレ・荷物を置いて整列		
9：45	はじめのあいさつ		
10：00	プログラム① 中央緑地物語 100年の森づくりのお話 その他、かやぶき民家の見学など	プログラム③ 森の観察 	プログラム② 森づくり
11：00	プログラム② 森づくり体験 季節に応じて植樹、植替えなど 	プログラム① 中央緑地物語 100年の森づくりのお話	プログラム③ 森の観察
12：00	昼食 		
13：00	プログラム③ 森の観察 森の探検や葉っぱの不思議、樹高測定など 	プログラム② 森づくり体験	プログラム① 中央緑地物語 100年の森づくりのお話
14：00	終わりの話 学習のまとめ 		
14：30	終了		

[illegible]

6. 環境学習プログラム一覧

- 室内等で行うプログラムは、雨天でも対応可能ですが、受け入れ人数によって対応できない場合もあります。小雨可のプログラムは、雨合羽等を着て実施することが可能なプログラムです。
- プログラムは植物や昆虫等を対象として行いますので、植物の状況等により内容が変更になることもあります。
- 受け入れ人数により、引率の先生方にプログラム運営を補助していただく場合があります。

【マニュアル一覧】

No	分野	プログラム名称	雨天 対応	適した季節				対応人数 (人)	目安時間 (分)
				春	夏	秋	冬		
必須	中央緑地の紹介	中央緑地物語 必須	可	○	○	○	○	適宜対応可	10
01	森づくり体験	植樹体験	不可	○	×	○	○	適宜対応可	30
02	森づくり体験	タネまき体験	可	○	△	○	○	30	30
03	森づくり体験	植え替え体験	可	○	○	○	○	30	30
04	森づくり体験	育苗圃場の見学	可	○	○	○	○	30	10~15
05	森づくり体験	除草体験	不可	○	○	○	△	30	30
06	森づくり体験	間伐体験	不可	△	×	△	○	30	60
07	観察・体験	季節の森の観察	小雨可	○	○	○	○	30	30~60
08	観察・体験	森の探検隊	小雨可	○	○	○	○	90	30~60
09	観察・体験	生き物調べ隊	小雨可	○	○	○	○	30	30~
10	観察・体験	葉っぱの観察	可	○	○	○	○	適宜対応可	30~45
11	観察・体験	土の中を探検しよう！	可	○	○	○	○	30	60
12	観察・体験	苗木の家族さがし	不可	○	○	○	△	60	30~45
13	観察・体験	虫取りしよう！	不可	○	○	○	△	適宜対応可	30~
14	遊び・観察	草や葉で遊ぼう！	可	○	○	○	△	90	15~30
15	体験	のこぎり体験	可	○	○	○	○	30	5(1人につき)
16	クラフト	森の標本づくり	小雨可	△	○	○	×	60	60
17	クラフト	木の人形 モックンづくり	可	○	○	○	○	60	30~60
18	クラフト	葉のこすり出しで木を作ろう	可	○	○	○	○	90	30
19	クラフト	葉で絵を描こう	可	△	○	○	△	60	30~60
20	クラフト	葉のステンドグラス	可	×	×	○	×	60	60
21	クラフト	葉のカードづくり	可	○	○	○	○	60	15~20
22	クラフト	自然クラフト	可	△	△	○	○	60	30~120
23	ゲーム	ネイチャーゲーム 私は誰でしょう	可	○	○	○	○	30~90	30
24	ゲーム	生き物クイズ	可	○	○	○	○	適宜対応可	10~15
25	ゲーム	日本一大きな木を作ろう	不可	○	○	○	○	適宜対応可	20
26	里山生活	昔の生活体験	可	○	○	○	○	30	30~
27	里山生活	畑の伝統作物	不可	○	○	○	○	30	60~
28	里山生活	森とつながる暮らし	不可	○	○	○	○	30	60~

中央緑地物語

尼崎の森中央緑地がある尼崎臨海部の歴史や、タネから100年かけて森をつくっていることなど、森づくりの特徴を紙芝居で紹介する。また、見頃の植物や生き物など、成長する森の様子などを紹介し、尼崎の森中央緑地について学ぶ。

◎目安時間：10分～30分

◎実施場所：屋外または屋内

◎対応人数：適宜対応可

◎必要スタッフ数：1グループ（何人でも可）につき1～2人

◎参加者の服装：特になし

持物：特になし

実施イメージ



ねらい

- 尼崎臨海部の変遷と生物多様性を作り出す森づくりについて学び、地域の歴史や、環境問題について考える気づきの機会とする。

必要資機材リスト

・紙芝居（小）※30人未満の場合	1式
・紙芝居（大）またはパソコンとテレビ※30人以上の場合	1式
・ハンドマイク ※人数が多い場合	1台
・中央緑地の紹介パネル	1式
・見ごろの植物や生き物等の実物または写真	1式

事前準備

【紙芝居を用意】

- 紙芝居を用意する。30人未満は紙芝居（小）を、30人以上は紙芝居（大）またはパワーポイントを用意する。

【ハンドマイクの準備・点検（人数が多い場合に準備）】

- 電池が入っているか、音声が出るかを確認しておく。

【紙芝居（大）、テレビを使う場合は、南側のカーテンを閉めておく】

- パークセンター会議室内で紙芝居（大）またはテレビを使う場合は、反射で見にくいので、南側のカーテンを閉める。

【見頃の植物や生き物の実物または写真を用意】

- その時期にみられる花や植物、生き物などの、採取した実物や写真を用意しておく。虫等は虫カゴに入れる。

実施内容

内容	メインスタッフ	サブスタッフ
① 森づくりのストーリーの紹介（紙芝居、パワーポイント） □ 紙芝居やパネルを用い、タネから100年かけて森をつくるストーリーや臨海部の歴史を紹介する。	・紙芝居を読む。 ・説明、進行する。	・紙芝居をめくるなどのサポートを行う。 ・音量や紙芝居の見え方などを確認する。
② 中央緑地の季節の森の様子を、実物や写真などで紹介する。 □ その時期にみられる花や植物などを、採取した実物や写真を見ながら、成長していく森の姿や、四季折々の変化を伝え、季節の森の様子を紹介する。	・説明、進行する。	・写真を持つなどのサポートを行う。
③ 子ども達に感想を聞く（時間があれば） □ 時間があれば、子ども達数人に感想を聞く。 【質問例】 ・この場所が海だったことを知っていた？ ・この場所に工場があるって知っていた？ ・この場所が、これからどんな場所になったらいいと思う？ ・尼崎の海辺に100年後に、どんな森ができたらいいいと思う？ など	・感想を聞く。	・感想を発表する子どものサポートを行う。

memo

.....

.....

.....

.....

植樹体験

苗木を植樹エリアに植樹する体験。

◎目安時間：45分

◎実施場所：植樹エリア

◎対応人数：適宜対応可

◎必要スタッフ数：約30人につき3人

◎参加者の服装：長袖、長ズボン

持物：軍手

実施イメージ



ねらい

- 植樹を行い森づくりにかかわることで、自然の大切さを学ぶ。

必要資機材リスト

・植樹苗	参加者数に応じて適宜
・移植ゴテ、スコップ等	1式
・目印用テープ	1式

事前準備

【植樹場所、植樹苗の確認】

- ☐ 植樹場所がどこか、事前に確認しておく。
- ☐ 植樹する苗の種類、本数を確認しておく。

【移植ゴテ等道具類の準備】

- ☐ 移植ゴテ、目印用テープ等、植樹に必要な道具類を準備しておく。

実施内容

内容	メインスタッフ	サブスタッフ
①圃場から苗木と道具を持って、植樹場所へ移動 ☐ 植樹する苗、移植ゴテ等の道具を持って、植樹場所へ運ぶ。	・植樹場所へ誘導する。	・道具を運ぶ。
②植樹方法の説明 ☐ 植樹場所で、子ども達に植樹方法について説明を行う。 ☐ 植える木の特徴・生態を紹介する。	・説明、進行する。	・説明が聞こえていない子どものサポート。
③植樹 ☐ 指定の場所に指定の種類の苗木を植樹する。 ☐ 目印用テープをつける。 ☐ 水遣りをする。		
④道具を持って圃場へ移動し、片付ける ☐ 空になったポット（植木鉢）や、移植ゴテ等の道具類を片付け、圃場まで持ち帰る。	・道具を片付ける。	

memo

.....

.....

.....

.....

タネまき体験

地域産の樹木や野草のタネをまく体験。自然の中では、タネがどのように広がるか（タネの散布方法）等についても紹介。

◎目安時間：30分

◎実施場所：圃場

◎対応人数：30人

◎必要スタッフ数：1人

◎参加者の服装：特になし

持物：軍手

実施イメージ



ねらい

- タネまき体験を通じて、植物のタネのカタチや色の意味や面白さを知り、植物への関心を高める。

必要資機材リスト

・タネまきに使うタネ	参加者数に応じて適宜
・土、肥料等	1式
・トレイ、ボウル、バケツ等	1式

事前準備

【タネの種類、数量等の確認】

- ☐ タネの種類、数量を事前に確認しておく。
- ☐ タネの種類に応じた、土、肥料の種類や配合の分量、使用するトレイの種類を確認しておく。

【道具類の準備】

- ☐ スコップ、トレイ、ボウル、バケツ、など道具類の準備を行う。

実施内容

内容	メインスタッフ	サブスタッフ
①タネの種類を紹介する ☐ タネまきをするタネの種類と、それらがどのような環境を好む植物か、また花や実の特徴などを紹介する。	・説明・進行する。	・説明が聞こえていない子どものサポート。
②タネまきの手順の説明 ☐ タネまきの手順について説明する。		
③タネまき体験 ☐ 土をトレイに敷き、タネをまく。必要に応じて、肥料を与える。 ☐ タネの種類や当日の日付が書かれたラベル（指定されたもの）を付ける。 ☐ タネをまいたトレイを圃場の所定の場所へ運ぶ。 ☐ タネをまいたトレイに水を遣る。		・ラベルを付ける。
④道具を片付ける ☐ 土を混ぜたボウルなどを水洗いし、所定の場所へ戻す。	・道具を片付ける。	

memo

.....

.....

.....

.....

植 え 替 え 体 験

タネから育った小さな苗木を、ポット（植木鉢）に植え替える体験。

◎目安時間：30分

◎実施場所：ビニールハウス

◎対応人数：30人

◎必要スタッフ数：4人

◎参加者の服装：長袖、長ズボン
持物：軍手

実施イメージ



ねらい

- 苗木の植え替えを通じて、植物の成長を理解する。

必要資機材リスト

・実生苗	適宜
・ポウル	4個
・土を入れた舟	4舟（4×8人程度）
・かごトレイ	適宜
・樹種名ラベル	かごトレイ1個につき1個
・ジョウロ	5個
・ポット（植木鉢）	70個程度（1人2個＋予備）
・剪定ばさみ	スタッフ1人につき1本
・土・肥料	苗90本につき1舟分

【苗の種類、数量等の確認】

- 苗の種類、数量を事前に確認しておく。
- 苗の種類に応じた、土、肥料の種類や配合の分量を確認しておく。

【道具類の準備】

- 道具類の準備を行う。

【土と実生苗の準備】

- 土をつくり、舟に入れる。
- 実生苗を掘り出して、ポウルに入れる。

事前準備

実施内容

内容	メインスタッフ	サブスタッフ
①苗の種類を紹介する □ 植え替えをする苗の種類と、それらがどのような環境を好む植物か、また花や実の特徴などを紹介する。 【紹介例】 ・クヌギの場合、ドングリが木のタネであることを説明する。ドングリは先端から根と芽が出るので、横に倒れやすい丸くてコロンした形状である。また、クヌギはご飯やお風呂を炊くための薪として昔はよく使われていたこと、樹液にカブトムシや虫などが寄ってくる等を紹介する。	・説明、進行する。	・説明が聞こえていない子どものサポート。
②植え替えの手順の説明 □ 植え替えの手順について説明する。 □ 苗がまっすぐに立つように、ポットの中で片手で苗を支える。 □ 根とタネがはみ出ないように土が淵までいっぱいになるようにかぶせていく。 ※土が少なくなりすぎないように注意。 □ なるべくポットの中央に苗が来るようにする。※ドングリを使用する場合は、根が張りやすく難しいことがあるので子どもには不要 □ 浅植えにならないようにする。※子どもは、浅植えになりすぎる場合があるので注意。		
③植え替え体験 □ 植え替えを行う。 □ 樹種名や日付が書かれたラベル（指定されたもの）をトレイ毎に付ける。 □ 植え替えた苗にジョウロで水を遣る。	・作業をサポート。 ・根が長すぎる場合は、直根を剪定ばさみで少し切る。	
④道具を片付ける □ 土を入れていたトレイなどを水洗いし、所定の場所へ戻す。	・道具を片付ける。	

memo

育苗圃場の見学

中央緑地では、地域の山から取ってきたタネを育てて森づくりを行っていることが特徴的である。タネを蒔いて苗木まで育てる場所が育苗圃場であり、森づくりを行う過程を見学する。

◎目安時間：10分～15分

◎実施場所：圃場

◎対応人数：30人

◎必要スタッフ数：2人

◎参加者の服装：特になし

持物：特になし

実施イメージ



ねらい

- 圃場で、タネから苗木まで育てる過程を見ることができ、中央緑地の苗木の育て方のこだわりを知ってもらう。

必要資機材リスト

- ・特になし

事前準備

- ☐ 特になし

実施内容

内容	メインスタッフ	サブスタッフ
①育苗圃場について以下を説明する。 ☐ 中央緑地は、地域の山から取ってきたタネから森をつくるのが特徴。 ☐ タネを蒔いて苗木を育てる場所が、育苗圃場である。	・説明・進行する。	・説明が聞こえていない子どものサポート。
②ビニールハウスの中について以下を説明する ☐ 黒いトレイの中で土の上にタネを蒔いて、芽が出るまで育てる。約1年育てると芽が出てくるが、中には、2～3年かかるタネもある。 ※マツの芽は、生育した木の状態の葉と似ているので、生徒も分かりやすく興味を持ちやすいので紹介すると良い。 ☐ 栄養が無い土で育てるのは、ばい菌が増えにくいからである。タネは、栄養がなくても、自分の栄養で芽が出るようにできている。〔芽が出てから肥料を与える〕 ☐ 芽が15cmくらいになると、一本ずつ植木鉢に入れる。(ポット苗)		
③寒冷紗を付けた屋外の圃場について以下を説明する。 ☐ 寒冷紗を付けた圃場では、ポットに植え替えた苗木を約2年育てる。 ☐ ネット(寒冷紗)で覆っているのは？・・・森の植物は、強い光に弱いものが多い。森の中の薄暗い環境に合わせている。 ☐ パイプの上に置いてあるのは？・・・根は水や土があると伸びてしまうが、空気しかない環境では伸びなくなる。根が植木鉢から出ると、植木鉢から苗を取り出せなくなってしまうので、パイプの上に植木鉢を置くことで、穴から根が伸びるのを防ぐ。		
④自動灌水装置を作動させて、水遣りの様子を見せる。(時間に余裕がある場合) ☐ 圃場の水遣りは自動灌水装置で行っている。時間があれば、自動灌水装置を作動させて、水遣りの様子を見せる。		・自動灌水装置を作動させる。

memo

.....

.....

.....

.....

除草体験

植樹エリアでの草刈りや、ポット苗の草抜きを体験する。

◎目安時間：30分

◎実施場所：圃場、植樹エリア

◎対応人数：30人

◎必要スタッフ数：1人

◎参加者の服装：長袖、長ズボン
持物：軍手

実施イメージ



ねらい

- 除草体験を通じ、外来種問題など、自然保全について考える機会とする。
- 木を育てる大変さを知る。
- 除草作業の爽快感を味わう

必要資機材リスト

- | | |
|------------------|----|
| ・ 剪定バサミ等（必要に応じて） | 1式 |
| | |
| | |
| | |

【除草場所の確認】

- ☐ 除草場所を選定し、蜂の巣の有無などを確認しておく。
- ☐ 対象種を決めて除草する場合、対象種の選定や解説、見分け方などを準備しておく。

事前準備

実施内容

内容	メインスタッフ	サブスタッフ
① 除草時の注意事項の説明 ☐ まず、苗の存在を確認してから除草を行うことや、刈った（抜いた）草の置き場所（集積または敷き均し）、除草時の注意事項を説明する。除草する種の見分け方、生態などを解説する。 ☐ できる限り、抜根除草とする。（根ごと引き抜く）	・説明・進行する。	・説明が聞こえていない子どものサポート。
② 除草場所へ移動		
③ 除草体験 ☐ 苗を確認する。除草を行う。	・苗をちゃんと見分けているか指導する。	
【雨天時の対応】 ポット（植木鉢）苗の除草を体験する。雨天時の場合は屋根がある圃場内で行う。	・説明・進行する。	・説明が聞こえていない子どものサポート。

memo

- 除草した草の大きさや根の長さを競うなどのゲーム性を持たせてもよい。

間伐体験

植樹エリアで間伐を体験する。

◎目安時間：60分

◎実施場所：植樹エリア

◎対応人数：30人

◎必要スタッフ数：3～4人

◎参加者の服装：長袖、長ズボン
持物：軍手

実施イメージ



ねらい

- 間伐を通じて、森の成長に気づくとともに、森を守り育てる大切さを知る。
- のこぎりなどの道具の使い方を学ぶ。

必要資機材リスト

・ヘルメット	参加者数に応じて適宜
・のこぎり、剪定バサミ等	1式

事前準備

[間伐場所の確認]

- ☐ 間伐を行う場所を事前に確認しておく。

[道具類の準備]

- ☐ ヘルメット、のこぎり等の準備をしておく。

実施内容

内容	メインスタッフ	サブスタッフ
①間伐の理由、作業時の注意事項等の説明 ☐ なぜ間伐を行うのか、作業時の注意事項、のこぎりの使い方、間伐時の注意事項などを説明する。	・説明・進行する。	・説明が聞こえていない子どものサポート。
②道具を持って間伐場所へ移動		
③間伐体験 ☐ 間伐する樹木を決める。 ☐ 間伐を行う。 ☐ 間伐した木を適当な長さに切り揃え、所定の場所に積む。	・間伐する木を指示する。	・間伐を行う人と、間伐後の枝を切り揃える人に分かれるよう指示する。
④道具を片付ける ☐ のこぎりなど、使った道具を片付ける。		

memo

.....

.....

.....

.....

季節の森の観察

森が成長することによってみられる生き物の営みや、季節でみられる植物などの観察を行う。

◎目安時間：30分～60分

◎実施場所：はじまりの森など

◎対応人数：30人

◎必要スタッフ数：1人～2人

◎参加者の服装：長袖、長ズボン

持物：特になし

実施イメージ



ねらい

- 生き物を育む森の大切さに気づく。
- 森の成長過程を学ぶ。

必要資機材リスト

- | | |
|-----------------|----|
| ・ カラーテープ（屋外観察用） | 1本 |
| ・ 顕微鏡（屋内観察用） | 適宜 |
| ・ ルーペ（屋内観察用） | 適宜 |
| | |
| | |

【観察する場所を確認しておく】

- それぞれを観察できる場所を確認しておく。枝などは、すぐに見つけやすいように、カラーテープなどでマーキングしておく。

【（必要な場合）顕微鏡やルーペを用意しておく】

- 細部を観察するため、顕微鏡やルーペを用意しておく。

事前準備

内容

メインスタッフ

サブスタッフ

【クマゼミの産卵痕の観察 〈通年〉】

①クマゼミの産卵痕を観察し、クマゼミの成長過程を説明する。

- 枝に付けられた産卵痕を観察する。
- 産卵場所として枯れ枝を選ぶ理由や、卵のその後の成長過程等を説明する。



クマゼミの産卵痕

【冬芽の観察 〈冬〉】

①冬芽を探す

- 冬芽を子ども達と探す。

②冬芽を観察する

- ルーペを使って、樹種ごとの冬芽の特徴を観察する。

③巣箱、鳥の巣、野鳥の観察

- はじまりの森で、中学生が設置した巣箱や、その時にみられる鳥の巣や野鳥があれば、それらを観察する。
- 遠くの鳥の巣や野鳥は、双眼鏡を用いて観察する。



冬芽（撮影：三宅喬）



シジュウカラ

・説明・進行する。

・説明が聞こえていない子どもたちのサポート。

実施内容

memo



森の探検隊

森を探検し、季節毎に見られる生き物や植物などを発見するプログラム。

◎目安時間：30～60分

◎実施場所：はじまりの森、エリアの森など

◎対応人数：90人

◎必要スタッフ数：3人

◎参加者の服装：長袖、長ズボン

持物：筆記用具、クリップボード

※雨天時は雨具

実施イメージ



ねらい

- 探検用シートに書かれたものを探すことで、観察力を養うとともに、自ら発見する喜びを体験する。
- 自然に対する知識だけでなく、感受性を養う。

必要資機材リスト

・探検用シート（A4）	各自1枚

事前準備

【探検用シートの作成】

- ☐ その時期に見られる森の特徴などを記した探検用シートを作成する。
- ☐ 春～夏：花や虫
- ☐ 秋～冬：実や木の色

実施内容

内容	メインスタッフ	サブスタッフ
①森について説明、歩く際の注意を説明する。 ☐ 森について説明する。（植え始めて〇年目、一番高い木は〇mなど） ☐ 森を歩く際の以下の注意点を説明する。 ・森の中を歩くときは、レンガの小道を歩く。 ・蜂に遭遇したら、慌てず騒がず通り過ぎるのを待ち、近くにいるスタッフか教員に伝える。 ・植物に触れると、かぶれたり毛虫に刺される時があるので、取らない・触れないようにする。	・説明する。	・説明が聞こえていない子どものサポート。
②森を探検する ☐ 探検用シートに書かれた森の宝物を探し、森を探検する。	・子ども達の発見、体験の補助を行ったり、気づきのサポートを行う。 ・子ども達が範囲外に行かないように注意する。	
③発見したものを発表 ☐ それぞれが見つけたものを発表する。 ☐ 見つけたものについて、必要に応じてスタッフより解説を行う。	・進行する。	・発表の際に、声が小さい子どものサポートを行う。

memo

- 探検用シートの作成例については、実施マニュアル P. 45【No 8「森の探検隊」探検シート作成例】参照

生き物調べ隊

公園内の植物や動物を、専門的知識を持つスタッフを講師に、さまざまな視点から調べ、楽しく生き物の生態を学習する

◎目安時間：30分～

◎実施場所：屋外・屋内

◎対応人数：30人

◎必要スタッフ数：2人

◎参加者の服装：長袖、長ズボン
持物：軍手

実施イメージ



ねらい

- 生き物の生態について知り、生き物の面白さ、不思議を楽しく学習する。

必要資機材リスト

・プログラム内容により決定

【プログラム内容の決定】

- ☐ 季節や参加人数、時間、また学校の希望などを踏まえて、プログラムを作成する。

事前準備

実施内容

内容	メインスタッフ	サブスタッフ
① ガイダンス ☐ 会議室で、プログラム内容の説明、予定を解説する。	・説明・進行する。	・説明が聞こえていない子どものサポート。
② 室内での学習と屋外活動 【例】アカメガシワのすべて ☐ 赤い芽はなぜ赤いのか、実物で観察。 ☐ 成長の速さと材の軽さを実際に伐採して体感する。 ☐ 種子の寿命のはなし（どこにでも生えてくる理由を知る）。 など 【例】葉の蒸散実験 ☐ 枝葉にビニール袋をかけ、葉から出てくる水蒸気を観察する。葉の気孔についてや、呼吸について説明する。 ☐		
③ 室内で学習のまとめ ☐ まとめの話。	・説明・進行する。	



memo

葉っぱの観察

葉の表面や、葉脈などを、虫めがねやマイクロスコープを使って観察する。観察して、発見したものを、プリントにスケッチする。

◎目安時間：30～45分

◎実施場所：屋内

◎対応人数：適宜対応可

◎必要スタッフ数：1人～3人

◎参加者の服装：特になし

持物：筆記用具、探検ボード

実施イメージ



ねらい

- 目では見えない、ミクロの世界をみることで、植物の形の不思議に触れる。
- じっくり観察することで、自然の観察力を養う。



必要資機材リスト

・虫めがね	適宜
・プリント	適宜
・パソコン	1台
・マイクロスコープ	1台
・テレビ	1台
・観察用の葉	適宜

事前準備

【観察用の葉を採取しておく】

- ☐ 前日が当日に、木の葉を人数分採取しておく。(2種類程度)
- ☐ 春～夏：ウリハダカエデ・コナラ/アカメガシワ・ヤブムラサキ
- ☐ 秋～冬：コナラ・ハマゴウ

【観察するための機材を設置しておく】

- ☐ 葉を拡大して観察するための、マイクロスコープ、パソコン、テレビをセッティングし、マイクロスコープで観察したものを、テレビで映し出せるように準備しておく。

内容	メインスタッフ	サブスタッフ
① 葉の観察する部分の説明 ☐ 葉っぱの何を観察するのか説明する。(例：毛、鋸歯、葉脈など)	・説明・進行する。	
② プrintの配布・説明 ☐ プrintを配布する。Printの書き方を説明する。		Printの配布を先生に依頼する
③ 葉の配布・説明 ☐ 観察する葉を配布する。樹種について簡単に説明する。		4～5枚ずつ葉っぱがついた枝を配る。
④ 虫めがねの配布・使い方説明 ☐ 虫めがねを配布する。虫めがねの使い方と、葉を観察するコツを説明する。		1列ずつ配布する。
⑤ 観察・スケッチ ☐ どんなところを観察してほしいのか、声かけをする。		スケッチをうながす。
⑥ マイクロスコープを使って観察・解説 ☐ マイクロスコープを使って、50倍で拡大したところと、200倍で拡大したところをみせる。		

memo

- 探検用シートの作成例については、実施マニュアル P. 48【No. 10「葉っぱの観察」観察シート作成例】参照

土の中を探検しよう！

異なった環境の土を採取し、土の中の生き物を探し出し、ルーペやマイクロ스코プで観察し比較する。

◎目安時間：60分

◎実施場所：屋外・屋内

◎対応人数：30人

◎必要スタッフ数：1人

◎参加者の服装：特になし
持物：特になし

実施イメージ



ねらい

- 普段、あまり見ることのできない土の中のミクロの世界を体験し、多様な生き物が森をつくっていることに気づく。

必要資機材リスト

・土（現地採取）	参加者数に応じて適宜
・土を入れる容器	参加者数に応じて適宜
・マイクロ스코プ、パソコン、プロジェクター等	1式
・観察用の長机	参加者数に応じて適宜
・ルーペ	参加者数に応じて適宜
・ピンセット	参加者数に応じて適宜
・土を広げる白い紙など	

【観察するための機材を設置しておく】

- 土を観察するための、マイクロ스코プ、パソコン、プロジェクターをセッティングし、マイクロ스코プで観察したものを、プロジェクターで映し出せるように準備しておく。

【雨天時の準備】

- 事前に観察する土を採取しておく。

事前準備

実施内容

内容	メインスタッフ	サブスタッフ
①観察する土を採取する □ 土の採取の仕方を説明する。 □ はじまりの森の土や、これから植樹をする場所の土など、異なった環境の土を採取する。	・説明・進行する。	・説明が聞こえていない子どものサポート。
②土をマイクロ스코プで観察する □ 白い紙や板の上に土を広げ、ルーペを使って生き物を探し、ピンセットで取り出す。 □ マイクロ스코プで拡大した映像で観察する。		

memo

.....

.....

.....

.....

苗木の家族さがし

苗木を観察シートを使って観察する。その後、森の樹木（成木）を観察し、苗木と同じ種類の樹木（成木）がどれかをあてるゲームを行う。

◎目安時間：30～45分

◎実施場所：屋外

◎対応人数：60

◎必要スタッフ数：1～2人

◎参加者の服装：長袖、長ズボン

持物：筆記用具、クリップボード

実施イメージ



ねらい

- 様々な樹木の種類、成木と苗の共通点や違いを知るとともに、観察力を養う。

必要資機材リスト

・ 観察シート（A4）	各自1枚

【ゲームに使う樹種を決める】

- ☐ ゲームに使う樹木の種類を決め、観察する成木と苗木を、あらかじめ設定しておく。

【木に番号札をかける】

- ☐ 答えとする成木に、番号札をかけておく。

事前準備

実施内容

内容	メインスタッフ	サブスタッフ
①苗木を観察する ☐ 観察シートに、観察した苗木の特徴をメモやスケッチにて記入する。	・説明・進行する。	・説明が聞こえていない子どものサポート。
②樹木（成木）を観察する ☐ 森の樹木（成木）を観察する。		
③苗木をあてるゲーム ☐ 観察した苗木と同じ種類だと思う樹木（成木）の番号を、観察シートに書いてもらう。 ☐ 正解を発表し、それぞれの樹種の特徴などを説明する。		

memo

- 観察シートについては、実施マニュアル P. 51 【No12 「苗木の家族さがし」 観察シート】 参照

虫取りしよう！

芝生広場や森の中に生息する昆虫を見つけて、採集し、観察する。
中央緑地の生き物観察のサポーター「虫取り名人さん」に指導を依頼することも可能。

◎目安時間：30分～

◎実施場所：屋外

◎対応人数：適宜対応可

◎必要スタッフ数：1～2人

◎参加者の服装：長袖・長ズボン

持物：捕虫網、虫かご

実施イメージ



ねらい

- 生き物と触れ合う
- 森づくりに伴い、多様な生物が生息できる環境が生まれたことを知る。

必要資機材リスト

・チャック式	適宜
・昆虫図鑑	適宜
・ルーペ・マイクロスコ プ	必要に応じて

【ハチの巣などの危険物の確認】

- ☐ 前日など事前に、採集場所を下見し、ハチの巣やイラガ幼虫などを確認し、可能なものは除去する。

事前準備

実施内容

内容	メインスタッフ	サブスタッフ
①採種範囲の確認・採取方法の説明 ☐ ロープ、柵などを越えて範囲外に出ないように注意する。 ☐ 捕虫網の使いかたの指導	・説明・進行する。	・説明が聞こえていない子どもをサポート。
②チャック式袋を配布し、使用方法の説明 ☐ 昆虫を1匹ずつ袋へ入れて、観察する。こうすることで、昆虫の体が傷つくことを防ぐ。		
③昆虫採集と観察 ☐ 採集した昆虫を袋に入れる。 ☐ どんな種類が取れたか、振り返りをする。		

memo

.....

.....

.....

.....

草や葉で遊ぼう！

尼崎の森中央緑地に生息している草や葉を使った遊びを体験する。

◎目安時間：15～30分

◎実施場所：屋外（雨天時は屋内）

◎対応人数：90

◎必要スタッフ数：2人

◎参加者の服装：特になし

持物：特になし

実施イメージ



ねらい

- 葉笛や、草を使った遊びを通じて、植物の特性などを観察するとともに、植物に対する興味を引き出す。

必要資機材リスト

・ 草や葉（現地採取）	参加者数に応じて適宜
・ 使う植物の全体像が分かる写真	1式
・ 汚れた10円玉、爪楊枝	適宜
・ 持ち帰り用ビニール袋	参加者数に応じて適宜

事前準備

【樹木の場所、葉の枚数を確認しておく】

- 使う樹木の場所を確認し、必要枚数を確保できるか確認する。

【道具類を準備しておく】

- 必要な道具類を準備しておく。

【雨天時の準備】

- 草や葉を採取し、必要数確保しておく。使う草や葉の全体像が分かる写真を用意しておく。

実施内容

内容	メインスタッフ	サブスタッフ
例) 【葉笛遊び】 ＜柔らかい葉の場合＞（適した葉：サクラ、ヤマボウシ、ムクノキ、ヤシャブシ） □ 葉を、人差指と中指で唇を挟むようにそっと当てて、震わすように吹く。 ＜硬い葉の場合＞（適した葉：ツバキ、マサキ、ネズミモチ） □ 葉先から巻き、中央を持ち、吹き口を上下の唇で押さえたり離したりして音を出す。 【シロツメクサのアクセサリーづくり】 □ シロツメクサを交互にからめて繋げていき、指輪や首輪などのアクセサリーを作る。 【カタバミ、ムクノキで10円磨き】 □ 10円玉をムクノキの葉で磨き、特性「葉の表面のざらざらが10円玉の表面を研磨する」について説明する。 【タラヨウ、クロガネモチの葉に文字を書く】 □ 爪楊枝でクロガネモチの葉に文字を書く。特性「表面が傷つけられることで、葉に含まれるタンニンが酸素に触れて黒くなる」について説明する。 【クマノミズキのつながる葉っぱ】 □ 葉を慎重に裂きながら、出てきた糸状の筋が切れないように、葉がぶら下がった状態をつくる。「クマノミズキを含むミズキ科の植物は、このような丈夫な維管束を持っている」といった特性を説明する。	・ 説明・進行する。 ・ 前で見本を作って見せ、コツなどを説明する。	・ 説明が聞こえていない子どものサポート。 ・ 作り方がわからない子どものサポート。

memo

のこぎり体験

森づくりを行っていくうえで間伐した木を、のこぎりで切る体験を行う。また、間伐の必要性や、昔の暮らしにおける木材の使われ方について説明する。

◎目安時間：5分(1人につき)

◎実施場所：屋外、テラス等

◎対応人数：30人

◎必要スタッフ数：3～4人

◎参加者の服装：長袖、長ズボン

持物：特になし

実施イメージ



ねらい

- 普段はあまり体験することが無い、木を切る体験をする。
- のこぎりの使い方を学ぶ。
- 森の成長や維持に必要な間伐、木材の使われ方について学ぶ。

必要資機材リスト

・ 間伐材（細いもの）	参加者数に応じて適宜
・ のこぎり	3本～
・ 木を切る台	3台～
・ 軍手（子ども用）	6組（1台につき2組）～
・ 軍手（大人用）	2組程～

事前準備

【間伐材を準備する】

- ☐ 人数に合わせて、必要な間伐材（細いもの）を準備しておく。
※太い枝で実施すると、切るのに時間がかかってしまう。

【道具類の準備】

- ☐ のこぎり、木を切る台、軍手（子ども用、大人用）等の準備をしておく。

実施内容

内容	メインスタッフ	サブスタッフ
①間伐材について説明する。 ☐ 森にとって間伐作業が必要な理由や、昔は木を切って暮らしに利用していたことなどを説明する。 ・ 昔は、家を作るための材料や、ご飯やお風呂を炊くための薪など、生活に必要な資材として木を切っていた。 ・ 森づくりを行っていくうえで、強い風に耐えるよう最初は密植する。 ・ 木が育ち大きくなってくると、木が混みあって森が暗くなる。 ・ 太陽の光が当たらなくなると、木の育ちが悪くなるので、光が当たるように適度に間伐する必要がある。	・ 説明する。	・ 説明が聞こえていない子どものサポート。
②のこぎりの使い方や注意点を説明する。 ☐ のこぎりを使う時は、必ず軍手を着用し大人と一緒に行う。 ☐ のこぎりの使い方について以下を説明する。 ・ 足を少し開いて立つ。 ・ 両手でのこぎりを持ち、のこぎりは刃の中央部分を使って、引くときに力を入れる。 ※片手で木を押さえると、自分の手に刃を当てることもある。 ※膝にのこぎりが当たらないよう注意する。 ・ 切り終わったら、次の人に軍手を渡す。	・ 説明する。	説明が聞こえていない子どものサポート。
③のこぎり体験 ☐ 軍手を着用してもらう。 ※教員が補助をして下さる場合は、教員にも軍手を着用してもらう。 ☐ スタッフは、足などで枝を固定し、のこぎりの端から10cm位の本端を切る。 ☐ のこぎりを全員が使い終わった後、全てののこぎりがケースに入っているか確認する。	・ のこぎり1本に大人が1人必ず付きながら、のこぎり体験を行う。	
④道具を片付ける ☐ のこぎりなど使った道具を片付ける。	・ 道具を片付ける	

memo

.....

.....

.....

.....

森の標本づくり

森の中で見つけた落ち葉や虫の死骸・木の実など、採取したものを箱に並べたり、画用紙に貼り、図鑑で調べて名札を付け、自分だけの標本を作る。

◎目安時間：60分

◎実施場所：屋外・屋内

◎対応人数：60人

◎必要スタッフ数：3人

◎参加者の服装：長袖、長ズボン
持物：軍手

実施イメージ



ねらい

- 森にどのような植物や生き物がいるか、よく観察することで、生き物の多様さに気づく。

必要資機材リスト

・箱・画用紙	1人1セット
・ボンド、セロハンテープ、ペン等	1式
・図鑑	数冊
・作業用の長机	参加者数に応じて適宜

【道具類の準備】

- ☐ ボンドやセロハンテープ、ペン等の文房具類を準備しておく。
- ☐ 採取した植物等の名前を調べるための図鑑を用意しておく。
- ☐ 作業用の長机を用意しておく。

事前準備

実施内容

内容	メインスタッフ	サブスタッフ
①植物採取に関するルールの説明 ☐ 植物や生き物採取に関して、通常は落ちているもののみ採取が可能であることなどのルールを説明する。	・説明・進行する。	・説明が聞こえていない子どものサポート。
②森を探検しながら、様々なものを採取する ☐ 落葉や虫の死骸、木の実など、発見したものを採取する。		
③標本の作り方について説明し、作成する ☐ 標本の作り方について説明する。 ☐ 採取したものを箱に並べたり、画用紙に貼り付け、図鑑で名前を調べて名札を付ける。 ※ 時間が無い場合は、名札づくりは、学校等に持ち帰って行う。		
④標本の発表 ☐ 自分が作った標本について、何に着目して採取したのか、標本を作ってみてどのような気づきがあったかなどを発表する。		

memo

.....

.....

.....

.....

木の人形 モックンづくり

森の間伐材を使って、人形「モックン」づくりを行う。森を育てるために、間伐が必要であることや、その間伐材を利用できるということを紹介する。

◎目安時間：30分～60分

◎実施場所：屋外または屋内

◎対応人数：60人

◎必要スタッフ数：2人

◎参加者の服装：特になし
持物：特になし

実施イメージ



ねらい

- 森の材の活用を体験し、森の成長や維持に必要な間伐、木材活用について学ぶ。
- クラフトを通じ、ものをつくる楽しさを体験する。

必要資機材リスト

・間伐材、木の実、小枝等 (現地採取)	参加者数に応じて適宜
・パーツ（人形の目）、タコ糸、ヒートン	参加者数に応じて適宜
・ボンド、爪楊枝、マジックペン、目打ち等	参加者数に応じて適宜
・モックンを乾かす机	各クラスにつき 1台
・ビニールシート（床に敷く用）	適宜

事前準備

【間伐材・木の実・落ち葉等を用意しておく】

- ☐ 人形の身体・パーツとなる、間伐材、木の実、落ち葉等を用意しておく。

【工作材料を用意しておく】

- ☐ パーツ（人形の目）、タコ糸、ヒートンを用意しておく。

【工作道具を用意しておく】

- ☐ パーツを取り付けるボンド、口などを描くマジックペン、ボンドを適量付けるための爪楊枝、ビニールシート（床に敷く用）等を用意しておく。

実施内容

内容	メインスタッフ	サブスタッフ
①森の間伐について説明する ☐ 森にとって間伐作業が必要な理由や、その間伐材を活用することの意義等について以下を説明する。 ・森づくりを行っていくうえで、強い風に耐えるよう最初は密植する。 ・木が育ち大きくなってくると、木が混みあって森が暗くなる。 ・太陽の光が当たらなくなると、木の育ちが悪くなるので、光が当たるように適度に間伐する必要がある。 ・昔は、間伐材を使って、ご飯やお風呂を炊くための薪として使用していた。 ・現代は、クラフトしたり、ピザを焼いたりして楽しむことができる。	・説明する。	・説明が聞こえていない子どものサポート。
②間伐材を使って、モックンづくりを行う ☐ 間伐材を用意する。 ☐ スタッフが、間伐材に目打ちで、中心を外した部分に傷をつけてヒートンをつける。 ※穴を開けすぎるとネジが抜けてしまうので、傷をつける程度。 ☐ 木の実や用意した材料を使って、間伐材に目や口を付け、人形をつくる。 ☐ 人形が完成したら、ヒートンに通すタコ糸を配る。	・ヒートンをつける。 ・タコ糸を配る。タコ糸を通すことができない子どものサポートを行う。	
③完成したモックンは、乾燥させる用の机に置いておく。 ☐ 完成したモックンは、乾燥させる用の机に置いておく。 ※完成したモックンを持ったまま、他のプログラムに参加すると、モックンに気が取られ集中できなくなる。	・全員が机に置くことができるように誘導する。	
④道具を片付ける。 ☐ ノコギリやペンなど、使った道具を片付ける。	・道具を片付ける	

memo

葉のこすりだしで木を作ろう

様々な種類の葉の上に紙を置き、色鉛筆などでこすり出しすることで、葉の形や葉脈の形を浮き出させる。それぞれがこすり出した葉（紙）を、模造紙に描かれた木の枝に貼り、みんなで1本の木を描く。

◎目安時間：30分

◎実施場所：屋内

◎対応人数：90人

◎必要スタッフ数：1～2人

◎参加者の服装：特になし

持物：特になし

実施イメージ



ねらい

- こすり出しによって、葉の形や葉脈の形の違いを体験する。
- 木の名前を覚える。

必要資機材リスト[1グループ(30人)の場合]

・木の枝を描いた模造紙	1枚
・様々な種類の葉	5種類程（約20枚ずつ）
・葉の名前や特徴を書いた紙	葉の種類に応じる
・色鉛筆あるいはクーピー	1人1本
・はさみ	15個程度
・のり	15個程度
・ゴミ袋	1枚

事前準備

【多様な種類の葉の準備】

- 葉の形が違う5種類程の葉を採取し準備しておく。

【葉の名前や特徴を書いた紙の準備】

- 採取した葉が何の葉か分かるよう、樹種名や特徴をそれぞれに紙に書いて準備しておく。

【木の枝を描いた模造紙の準備】

- 最後に全員のこすり出した紙を貼るための模造紙を準備する。模造紙に1本の木の枝や幹を描いておく。

【道具類の準備】

- 色鉛筆あるいはクーピー、はさみ、のり等の必要な道具を準備しておく。

実施内容

内容	メインスタッフ	サブスタッフ
①こすり出しの方法について以下を最初に説明し、実践する。 <1枚目> □ 自分で好きな葉を選び、樹種名を覚えておく。 □ 葉を裏返して上に紙を置き、色鉛筆を横に倒しながら上からこすり出していく。 ※葉の裏の方が葉脈がくっきりと出ているので、浮き出しやすい。 □ 樹種名を忘れないように、こすり出す部分の裏に書いておく。 □ 葉の形が浮き上がったら、形に添ってはさみで切り取る。 □ 切り取った葉（紙）を模造紙の木の枝の好きな場所に貼る。 <2枚目> □ 2枚目は、友達と葉を交換する。交換する際に樹種名を相手に伝えさせるようにする。 □ 1枚目と同様にこすり出しを行い、友達と葉を交換するという内容を時間内で繰り返す。	・説明する。 ・何という名前の葉か、覚えているかを確認する。	・説明が聞こえていない子どものサポート。
②出来上がった模造紙をみんなで見る □ 出来上がった模造紙をみんなで見て、それぞれの葉の形の違いを共有する。	・説明・進行する。	・模造紙を広げて見せる。
③いくつかの葉について、特徴を紹介し振り返りを行う。 □ いくつかの葉について、名前や形、色などを紹介し、振り返りを行う。		・説明が聞こえていない子どものサポート。

memo

葉で絵を描こう

様々な葉を集めて、画用紙に貼って絵をつくる。

◎目安時間：30～60分

◎実施場所：屋外・屋内（雨天時は屋内）

◎対応人数：60人

◎必要スタッフ数：1～2人

◎参加者の服装：特になし
持物：特になし

実施イメージ



ねらい

- 様々な葉の特性を観察し、それぞれの植物の違いに気づく。
- 葉の形や色の美しさに触れ、観察力や創造力を養う。

必要資機材リスト

・ 葉（現地採取）	参加者数に応じて適宜
・ のり、セロハンテープ、ハサミ等文具類	1式
・ 画用紙	各自1枚
・ 持ち帰り用ビニール袋	適宜

事前準備

【文具の準備】

- ☐ のりやハサミなど、必要な文具を準備しておく。

【雨天時の準備】

- ☐ 事前に様々な形や種類の葉っぱを集めておく。

実施内容

内容	メインスタッフ	サブスタッフ
①葉を集める ☐ はじまりの森などで、様々な種類の葉を拾い集める。	・説明・進行する。	・説明が聞こえていない子どものサポート。
②画用紙に葉を並べる ☐ 画用紙に拾ってきた葉を並べ、形をつくる。		
③葉を画用紙に貼る ☐ 形が決まったら、画用紙にのりやセロハンテープで葉を貼り付ける。		
④作品の発表 ☐ 完成した作品について、なぜその葉を使って絵を描いたか、また、気づいた葉の特徴などについて発表する。		

memo

.....

.....

.....

.....

葉のステンドグラス

様々な落ち葉を集めて、穴を開けた黒い画用紙に貼り、葉のステンドグラスを作る。

◎目安時間：60分（雨天時は15分）

◎実施場所：屋外（雨天時は屋内）

◎対応人数：60人

◎必要スタッフ数：1～2人

◎参加者の服装：長袖、長ズボン

持物：軍手

※雨天時は必要なし

実施イメージ



ねらい

- 葉が紅葉する仕組みを学ぶ。
- 落ち葉の美しさに触れ、創造力を養う。

必要資機材リスト

・落ち葉（現地採取）	参加者数に応じて適宜
・ハサミ、セロハンテープ	1式
等文具類	
・黒い画用紙	各自1枚
・持ち帰り用ビニール袋	適宜

【黒い画用紙の準備】

- 黒い画用紙に事前に丸や四角の穴を開けておく。

【文具の準備】

- ハサミやセロハンテープなど、ステンドグラスづくりに必要な文具を準備しておく。

【雨天時の準備】

- 事前に落ち葉を集めておく。

事前準備

実施内容

内容	メインスタッフ	サブスタッフ
①落ち葉を集める □ はじまりの森などで、様々な種類の落ち葉を拾い集める。	・説明・進行する。 ・葉が秋に紅葉する仕組みを説明する。	・説明が聞こえていない子どものサポート。
②落ち葉をハサミで切る □ 黒い画用紙に開いた穴より、少し大きい落ち葉をハサミで切る。		
③落ち葉をセロハンテープで貼る □ 黒い画用紙にセロハンテープで落ち葉を貼る。 □ 全ての穴に落ち葉を貼れば完成。		
④落ち葉のステンドグラスを観察する □ 完成した落ち葉のステンドグラスを陽光に透かしたり、窓に貼るなどして、葉っぱの美しさを観察する。		

memo

- 葉のステンドグラスの台紙型紙については、実施マニュアルP.54【No20「葉のステンドグラス」台紙型紙】参照

葉のカードづくり

穴の開いたカードに絵や葉を貼りつけて、メッセージカードを作る。

◎目安時間：15～20分

◎実施場所：屋内

◎対応人数：60人

◎必要スタッフ数：1～2人

◎参加者の服装：特になし
持物：特になし

実施イメージ



ねらい

- 葉の色や質感を感じて、創造力を養う。

必要資機材リスト

・カード台紙	参加者数に応じて適宜
・はさみ	参加者数に応じて適宜
・のり	参加者数に応じて適宜
・色鉛筆、クーピー、サインペンなど	1式
・数種類の葉	参加者数に応じて適宜

【数種類の葉の準備】

- ☐ 数種類の葉を、人数分以上採取しておく。

事前準備

実施内容

内容	メインスタッフ	サブスタッフ
①好きなカード台紙を選ぶ。 ☐ 数種類のカード台紙の中から、好きなものを選ぶ。	・説明・進行する。	・説明が聞こえていない子どものサポート。
②カード台紙の穴をくりぬく。 ☐ カード台紙のくりぬく穴を、はさみで切りぬき、穴をあける。		
③葉を貼る場所を考える。 ☐ 葉を1枚選び、どこに貼るかを考える。		
④カードに、絵等を描き葉を貼る。 ☐ カードに、メッセージと好きな色や絵を描き、葉をのりで貼る。		

memo

- 葉のカードづくりの台紙型紙については、実施マニュアル P. 56 【No21「葉のカードづくり」台紙型紙】参照

自然クラフト

尼崎の森中央緑地で、落ち葉や、どんぐりなどの木の実、小枝などを拾い、それらを使ってクラフトを作る。

◎目安時間：30～120分

◎実施場所：屋外・屋内

◎対応人数：60人

◎必要スタッフ数：2～3人

◎参加者の服装：長袖、長ズボン

持物：軍手

※雨天時は必要なし

実施イメージ



ねらい

- 落ち葉や木の実、小枝など、自然の造形を観察し、それらを用いクラフトをすることで、創造力を養う。

必要資機材リスト

・落ち葉、木の実、小枝等 (現地採取)	参加者数に応じて適宜
・木工用ボンド、ハサミ、マジックペン等文具類	1式
・持ち帰り用ビニール袋	適宜

【文具の準備】

- ☐ 木工用ボンドやハサミなど、必要な文具を準備しておく。

【雨天時の準備】

- ☐ 事前に落ち葉や木の実、小枝などを集めておく。

事前準備

実施内容

内容	メインスタッフ	サブスタッフ
①材料を集める ☐ はじまりの森などで、落ち葉や、木の実、小枝などを拾い集める。	・説明・進行する。	・説明が聞こえていない子どものサポート。
②自然クラフト体験 ☐ 拾った材料を使って、自由にクラフトを作る。		
③作品の発表 ☐ 完成した作品について、何を作ったか、使った材料、気づいた事などについて発表する。		

memo

.....

.....

.....

.....

ネイチャーゲーム 私は誰でしょう

人数分の異なる種類の生き物のカードを用意して、1人ずつ、本人に見えないように、背中にカードを付ける。2人1組で質問をしあいながら、自分のカードが何の生き物かを当てるゲーム。

◎目安時間：30分

◎実施場所：屋外または屋内

◎対応人数：30～90人

◎必要スタッフ数：30人につき1人

◎参加者の服装：特になし

持物：特になし

実施イメージ



ねらい

- 中央緑地の森に既にある生き物、森が育っていくに連れて増えていくかもしれない生き物を知り、興味を持ってもらう。

必要資機材リスト

・動物カード	1人1枚
・洗濯ばさみ	1人1本（強風の時は1人2本）
・洗濯ばさみを入れるカゴ	適宜

事前準備

【必要資機材の準備】

- ☐ 動物カード、洗濯ばさみ、洗濯ばさみを入れるカゴを準備しておく。

実施内容

内容	メインスタッフ	サブスタッフ
①クラス毎に分かれる ☐ 1クラスずつに分かれる。	・整列させる。	
②ルールを説明する。 ☐ ゲームに使用する動物カードを見せて、動物の種類を説明する。 ☐ 以下のルールを説明する。 ・自分に見えないように、背中にカードを貼ってもらう。 ・ペアの相手と向かいあい、まず挨拶をする。 ・自分の背中に付いているカードの生き物について、「私は足が4本ですか？」「私は毛の色が茶色ですか？」などの特徴を質問する。 ※「私の足は何本ですか？」といった具体的な質問は不可。 ・質問に対して回答者は、「はい」か「いいえ」のみで答える。 ※「足は4本あるよ」などの具体的な回答は不可。 ・質問を交互に1問ずつ行いながら、自分の背中のカードの生き物を当てる。 ・答えが分かったら、スタッフか教員に答え合わせをしに行く。 ・正解者は、背中のカードを前面に貼り替えてもらい、回答者としてゲームに戻る。	・教員と一緒に、子ども達の前で1問ずつやりとりし、実践しながらルールを説明する。	・説明が聞こえていない子どものサポート。
③背中にカードを付けていく。 ☐ 整列させて、生徒に見えないように、背中（首）の服の部分に、カードを洗濯ばさみで付けていく。 ※風が強くカードが飛んでしまう場合は、背中の左右両側に洗濯ばさみを2本付けて固定する。	・教員に協力してもらいながら、カードを取り付けていく。	
④ゲームを実践する。 ☐ ルールに慣れさせるため、整列し向かいあった人と1問程やりとりをする。 ☐ その後、バラバラになってペアを見つけてゲームを再開する。 ☐ ある程度の正解者が出てきたら、正解者を座らせ、まだ正解していない生徒の数を把握する。 ☐ まだ正解していない生徒が3～5人になったら、前に並んで1人に対してみんなでヒントを言い、正解するまで回答を促し、全員が正解するまで行う。	・質問ができない子どものサポートを行う。 ・答え合わせを行う。	
⑤まとめの話 ☐ このゲームのねらいについて話し、まとめとする。	・まとめの話をしする。	・説明が聞こえていない子どものサポート。

memo

- 動物カードについては、実施マニュアルP.63【No23「ネイチャーゲーム 私は誰でしょう」動物カード】参照

生き物クイズ

プロジェクターを使いながら、生き物のおもしろそうなクイズを出し、その場で答え合わせをしながら学習する。

◎目安時間：10～15分

◎実施場所：屋内

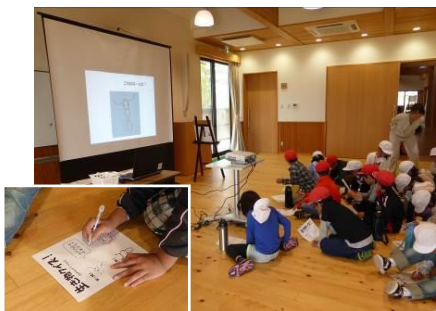
◎対応人数：適宜対応可

◎必要スタッフ数：45人につき1～2人

◎参加者の服装：特になし

持物：筆記用具

実施イメージ



ねらい

- 生き物の特徴について学ぶとともに、おもしろい生き物を紹介することで興味を持ってもらう。

必要資機材リスト

・ プロジェクター、PC	各1台
・ 生き物クイズ用スライド	1式
データ	
・ 解答用紙	各自1枚

【クイズに使うスライドの準備】

- 昆虫などの生き物の体のつくりや成長に関する特徴についてスライドを作成しておく。
※昆虫の足は6本、どこから生えているか、クモはどうか、アゲハチョウの幼虫と成虫の足の数の違い、など

【プロジェクター等の準備】

- スライドを映すプロジェクターやPCを準備しておく。

事前準備

実施内容

内容	メインスタッフ	サブスタッフ
①クイズの準備 □ アリやクモなどの、足の部分を表記していない体の部分のみを描いた紙を配る。	・説明、クイズの進行をする。	・解答用紙を配布する。
②生き物クイズ □ スライドで、アリやクモの体の形を写しながら、足がどこから何本生えているか、紙に描いてもらう。 □ スライドに実際のアリの写真を写し、答え合わせをする。昆虫は足が6本あること、頭、胸、腹の3つの部分からできていること、昆虫の足や羽はすべて胸から生えていることなどを話す。 □ 同様に、クモやチョウなどに関するクイズを出す。		・子どもが、質問を理解できているかを確認し、できていない場合はサポートする。

memo

- 解答用紙については、実施マニュアルP.82【No24「生き物クイズ」解答用紙】参照

日本一大きな木を作ろう

日本一大きな幹周りの大木の大きさを、みんなで体感する。

◎目安時間：20分

◎実施場所：芝生広場など

◎対応人数：適宜対応可

◎必要スタッフ数：45人につき2人

◎参加者の服装：特になし

持物：特になし

実施イメージ



ねらい

- 日本一大きな木の大きさを体感することで、樹木の成長について学ぶとともに、100年後の尾崎の森にどんな大木が生えているか想像させる。

必要資機材リスト

- | | |
|------------------|-----|
| ・メジャーかロープ（30m以上） | 1 個 |
| ・解説パネル | 1 式 |
| | |
| | |

事前準備

【広い場所の確認】

- 大きな円になれる、広い場所を確保しておく。

【ロープやメジャーの準備】

- 長さ（30m 以上）を図ることのできるメジャーやロープなどを準備しておく。

※オプション「世界一大きな木を作ろう」

- 「世界一大きな木を作ろう」を実施する場合は、長さ（58m 以上）を測ることのできるメジャーやロープなどを準備しておく。

実施内容

内容	メインスタッフ	サブスタッフ
①日本一大きな木について紹介する。 □ 日本一大きな木（鹿児島県蒲生市のクスノキ）の幹周（24m）や樹高（30m）、樹齢（約1,500年）などについて説明し、大きさを想像してみる。 ※となりのトトロの住んでいた木は大きなクスノキの話など。	・説明する。	・説明が聞こえていない子どものサポート。
②幹周の大きな円をつくる □ 日本一大きな木の幹周と同じ長さ（24m）のメジャーの輪をつくり、地面に置く。 □ 輪の上にみんなで足を広げて木の大きさを体験する。その後、何人かずつ輪の外に出て、最少何人で一周できるかを調べる。 □ 輪の中に何人くらい入れるか試してみる。	・進行する。	・メジャーを使用する際の補助を行う。 ・子どもが輪になっているか様子を見てサポートする。
③日本一大きな木の長生きの秘訣などを紹介する □ 蒲生のクスノキは神社の中に生えていて、幹の中は腐って洞穴のようになっている、その穴に木の扉をつけて、中に神社の大切なものをお祀りしてある。 □ クスノキは虫を寄せ付けない香りがするため、虫に喰われにくく長生きしやすい。昔は、クスノキを樟脳にして防虫剤に使用していた。	・説明する。	・説明が聞こえていない子どものサポート。
※オプション「世界一大きな木を作ろう」（長さ58m以上のメジャーがある場合） □ 世界一大きな木（メキシコのラクウショウ 幹周：58m、樹高42m）でも試してみる。 □ 日本一大きな木とどれくらい大きさが違うのか、比べてみる。	・進行する。	・メジャーを使用する際の補助。 ・子どもが輪になっているか様子を見てサポートする。
④まとめの話 □ 解説パネルなどを用いてこのゲームのねらいについて話し、まとめとする。	・まとめの話をする。	・説明が聞こえていない子どものサポート。

memo

- 解説パネルについては、実施マニュアルP.85【No25「日本一大きな木を作ろう」解説パネル】参照

かやぶき民家 昔の生活体験

江戸時代後期に建築された県指定文化財のかやぶき民家「旧小阪家住宅」を活用し、里山をと共に生きる昔の生活の体験をします。

◎目安時間：20～60分

◎実施場所：かやぶき民家とその周辺

◎対応人数：30人

◎必要スタッフ数：2～4人

◎参加者の服装：特になし

持物：特になし

実施イメージ



ねらい

- 江戸後期から昭和初期の生活を体験し、持続可能な里山暮らしと現代の暮らしとの違いを体感し、これからの暮らしを考えるきっかけとする。

必要資機材リスト

プログラムによる

プログラムに応じて準備する

事前準備

実施内容

内容	メインスタッフ	サブスタッフ
①昔の暮らしのおはなし ☐ 畳の間に座って、伝統的な民家のつくりや風習など、昔の暮らしのおはなしを聞く	・説明する。	・部屋に座る配置などの指示
②かやぶき民家の見学 ☐ かまど（おくどさん）、五右衛門風呂、天井裏などを、解説を聞きながら見学する ☐ かまどに火を入れたり、風呂釜に入ってみたりもできます	・説明をしながら見学させる	・聞こえていない人のサポート ・移動の指示
③昔のあそび体験 ☐ 中央緑地オリジナルのカルタやお手玉、こま回しなど、昔のあそびを体験します	・遊び方の説明 ・一緒に遊ぶ	・説明が聞こえていない子どものサポート。
④かやぶき民家の手入れ ☐ 畳拭き、畳上げ、障子の張替え、床拭きなどの家事体験	・説明	・補助
⑤せんたく体験 ☐ たらいと洗濯板を使って、昔のせんたくを体験します	・説明	・補助

memo

かやぶき民家 畑の伝統作物

かやぶき民家前の畑では、この地域に昔から伝わる伝統作物を栽培しています。その栽培や利用を通じて、持続可能な農業や伝統作物にまつわる歴史、特性を学びます。

◎目安時間：60分

◎実施場所：畑

◎対応人数：30人

◎必要スタッフ数：2～3人

◎参加者の服装：特になし

持物：特になし

実施イメージ



ねらい

- 郷土に伝わる伝統作物を知り、郷土への関心や愛着を高める。
- 循環型の持続可能な農業を体験し、食糧生産への理解を深める。

必要資機材リスト

プログラムによる

実施時期に合わせて、作業内容を調整し、準備をする。

事前準備

実施内容

内容	メインスタッフ	サブスタッフ
☐ 尼芋（あまいも） 尼崎の臨海部で栽培されていたサツマイモ。ジェーン台風で一旦消滅したが、その後、市民の手で再興されました。春～秋	・季節に応じた畑作業の指導 地寄せ、畝たて、植え付け、除草、収穫など ・収穫物を活用した作業の指導 綿…綿繰り、糸車 野菜の活用 藍…草木染め など	
☐ 武庫一寸（むこいっすん） ソラマメ。実が大きく、一寸ほどもあるから。 秋～初夏		
☐ 大麦 この地域では、古くからムギの栽培が行われており、小麦、大麦いずれも栽培されていたそうです。麦踏や「麦秋」を体験します。麦の茎でストローづくりもできます。 冬～初夏		
☐ 綿（和綿） 江戸～明治にかけて、ワタの生産が盛んだったが、外国から輸入が始まって衰退してしまった。尼崎で栽培されていた「阪上綿」は消失したため、八尾に伝わる和綿を尼崎歴史博物館よりいただき、栽培しています。栽培に加え、綿繰り、糸繰りなどの加工も体験できます。		
☐ 藍 当地の伝統作物ではないが、藍染めの体験のため、栽培している。簡易な「たたき染め」や生葉染めで藍色の草木染めが体験できる。		
☐ 田能の里いも 尼崎市北部に伝わる里いもの栽培		

memo

かやぶき民家 森とつながる暮らし

里山林の持続可能な利用によって成り立っていた、日本の伝統的な里山里山の暮らしを体験します。

里山林から燃料、肥料（落ち葉など）を調達し、畑の栽培や日々の生活に利用する生活の体験をします。

◎目安時間：60分～

◎実施場所：かやぶき民家・裏山

◎対応人数：30人

◎必要スタッフ数：2～4名

◎参加者の服装：特になし

持物：特になし

実施イメージ



ねらい

- 里山林の恵みで成り立つ循環型の生活様式を体験することで、現代の生活を見直すきっかけとする。

必要資機材リスト

- ・ノコギリ、ナタ、木づち
- ・熊手、てみ

事前準備

季節に応じて内容を打ち合わせし、プログラムを作成する。

実施内容

内容	メインスタッフ	サブスタッフ
プログラムの一例	・	・
☐ クヌギ林の間伐 間伐材をつかった薪づくり・薪割り	・	・
☐ 落ち葉の採集とたい肥作り 落ち葉を集めて、堆肥場に混ぜ込む	・	・
☐ 畑の作業 地寄せと畝たて	・	・
☐ かまど（おくどさん）への火入れ かまどで火おこしをし、薪をくべて湯を沸かす		・
☐ 森の木を使って和紙の材料を作り出し、紙すき体験、ハガキ程度の大きさの紙を作ります。		・
季節や時間、人数に応じて、内容をご相談いたします。	・	・

memo



かやぶき民家 (旧小阪家住宅)

六甲山南麓に現存する、唯一の江戸時代のかやぶき民家で、兵庫県指定重要有形文化財として指定されている。



建物概要

構造様式：入母屋造
かやぶき木造平屋建て

江戸時代に庄屋も務めた芦屋市三条町の小阪家住宅を移築復元したもの。当民家は阪神淡路大震災で全壊し解体された後芦屋市で保管されていた。



たたみの間

縁側



おくど



羽釜での炊飯

畳干し



伝統作物の栽培



武庫一寸



大麦



藍



綿



綿



尼イモ



森と人が共生していた

昔の暮らしや行事を体験できます。



七夕



ひなまつり



かるた



こま、お手玉

尼崎の森中央緑地 環境学習

【資料】実施マニュアル

森で活動するときの注意点

森で活動するときの注意点

- 多様な木が育ち、多様な生き物が暮らす森を目指す尼崎の森中央緑地では、「かぶれる木」「刺す虫」などに会うこともあります。
- 日常の管理の中で蜂の巣や毛虫などを見つけたらその都度対処をしていますが、根絶することは困難で、またそれは私たちが目指す森の姿とも異なります。
- そこで活動にあたっては被害を防ぐため、また被害に遭っても軽い程度で済ませるため、次のことを必ず守って行動してください。

1. 予防：かぶれたり刺されたりしないために・・・

①肌を出さない

- ・長袖・長ズボン・手袋（軍手）・帽子やタオルを着用しましょう。

②近づかない、触らない

- ・蜂の巣や毛虫を発見したら、近づいたり触れたりせずにすぐに管理者に知らせましょう。

2. 対処：万が一かぶれたり刺されたりしたら・・・

①薬を塗る

- ・抗ヒスタミン含有のステロイド軟膏を塗ります※。
- ※パークセンター（作業棟）では被害に遭われたときの応急処置の薬品等を常備しています。

②医師の診察を受ける

- ・症状が改善しないなどの不安がある場合、すぐに医師の診察を受けましょう。

中央緑地で要注意な生きもの



●ハゼノキ

○注意する場所
はじまりの森
湾岸線北側法面

○注意点
皮膚に触れるとかぶれる

●イラガの仲間

○注意する場所
はじまりの森（おもに落葉樹）

○注意点
棘で刺されると痛い



●アシナガバチの仲間

○注意する場所
葉の裏など雨の当たりにくい場所

○注意点
巣を刺激すると針で刺される。

●チャドクガ

○注意する場所
はじまりの森
湾岸線法面
育苗圃場の生垣
（ツバキ、サザンカなどの常緑樹）

○注意点
毛に触れると痒いかぶれる



【尼崎の森中央緑地の森づくりテキストより抜粋】

No. 08「森の探検隊」探検シート作成例

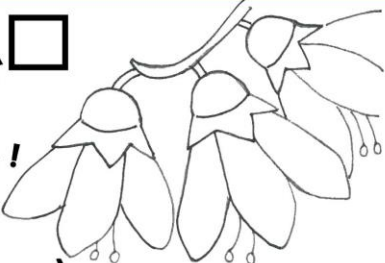
はじまりの森探検隊

はじまりの森を探検し、
ミッションを達成せよ！



名前 ()

こんなお花を ☐
発見せよ！
ヒント：白色の花だよ！



()

飛んでいる
虫を
発見せよ！



木の身長を
測ってみよう！

・木のなまえ

()

・予想の身長

()

・木の身長

()



さかさま バナナ！？
見つかるかな？
ヒント：きみどり色だよ！



()

自分だけの大発見！
面白いもの見つけれられるかな？

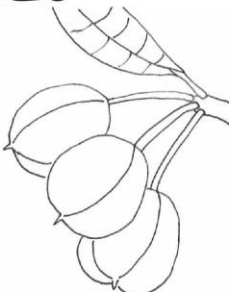
[]

森の探検隊

森を探検し、
ミッションを達成せよ！

名前（ ）



こんな形の実を発見して さわってみよう！ ヒント：茶色だよ！ ☐ (ノグルミ) 	こんな形の ひっつき虫 みつかるかな？ ☐  (キンミズヒキ)
緑色の幹の木^{みき} みつかるかな？ ヒント 竹のように緑色をし ているよ！ ☐  (ウリハダカエデ)	こんな形の実を発見せよ！ ヒント：黄緑色だよ！ ☐ (トベラ)  自分だけの大発見！ 面白いものを見つけられるかな？

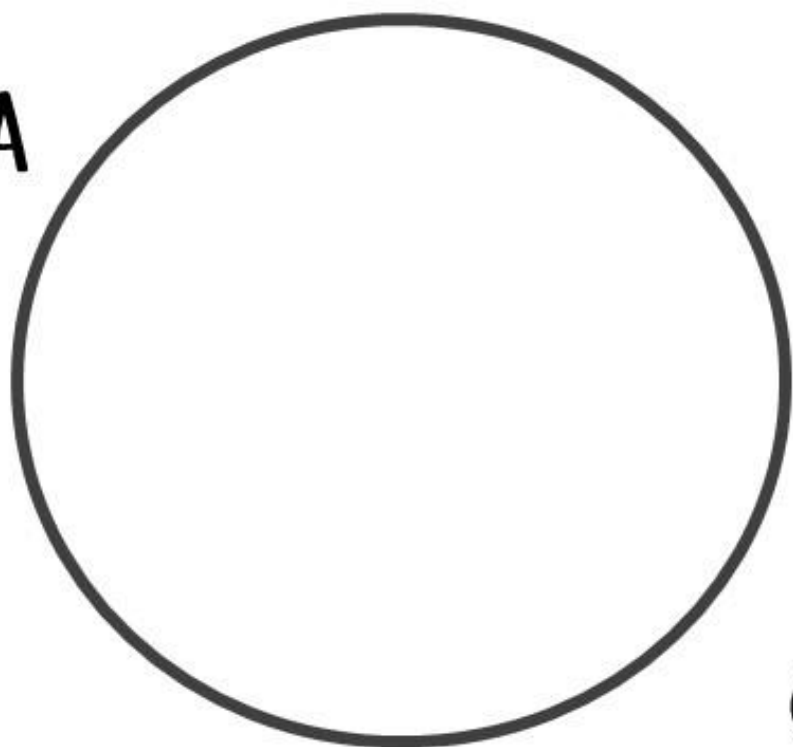
No. 10「葉っぱの観察」観察シート

虫めがねで 植物のせかいを のぞいてみよう



なまえ ()

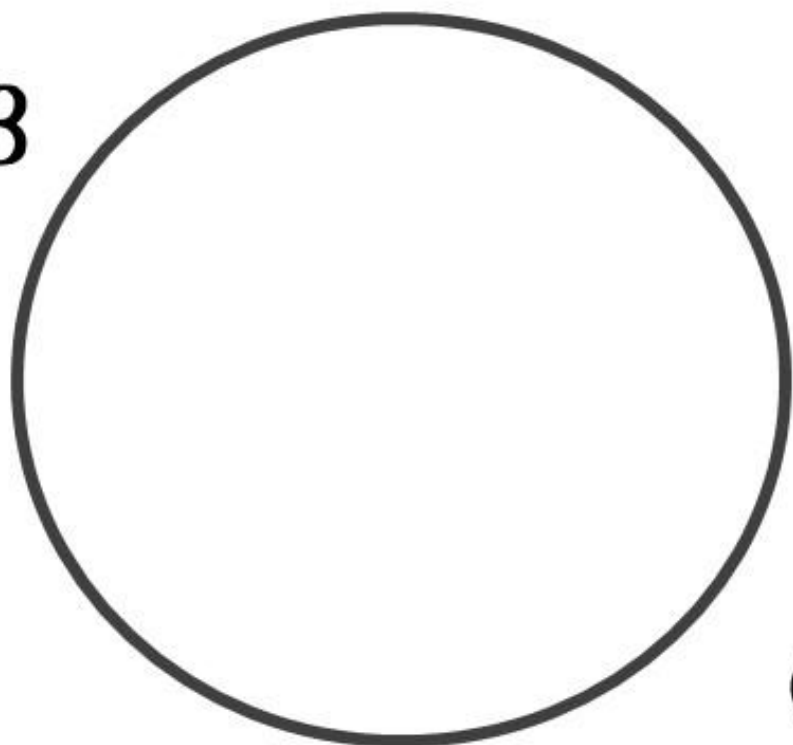
A



メモ

()

B

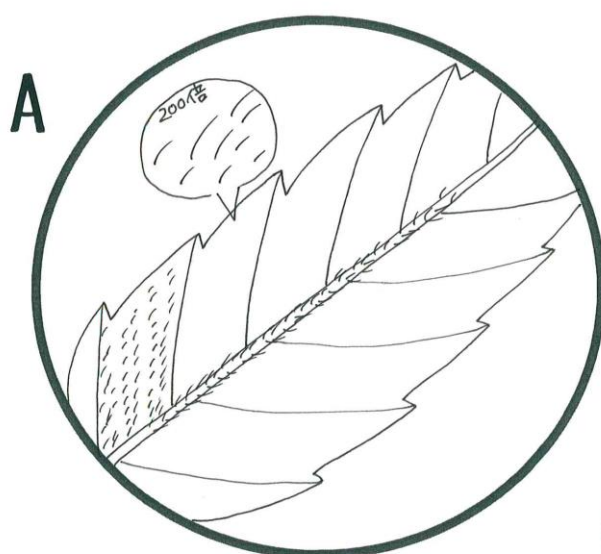


メモ

()

虫めがねで 植物のせかいを のぞいてみよう

なまえ ()



×毛

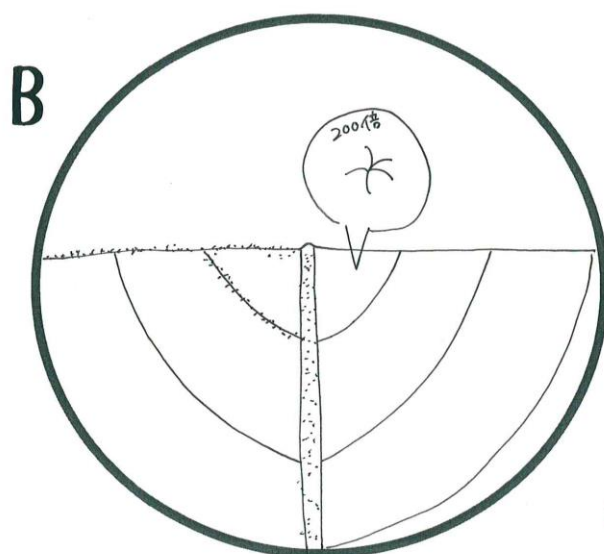
ザラザラしている。

毛の色は白色

毛の長さは
0.1 ~ 0.3mmくらい

形はまっすぐ

(コナラ)



×毛

すごくふわふわしている

毛の色はクリーム色

毛の長さはとても短い。

200倍に
拡大すると毛はイロギンチャクのような

(ヤブムラサキ)

No. 12「苗木の家族さがし」観察シート

苗木の家族さがし

名前 _____

ポットの中の苗木をよく観察して 森の中から 家族をさがそう

苗木1

木の名前 _____

よく見てスケッチしてね



家族の木の番号

()

苗木2

木の名前 _____



家族の木の番号

()

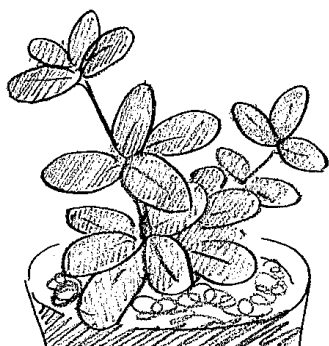
苗木の家族さがし

名前 _____

ポットの中の苗木をよく観察して 森の中から 家族をさがそう

苗木1

木の名前 _____



こいみどり色の葉
小さくて丸い
ややかたい

よく見てスケッチしてね



家族の木の番号

(③)

苗木2

木の名前 _____

細長い葉

ふちがひらひら
している

大きい葉



家族の木の番号

(①)

No. 20「葉のステンドグラス」台紙型紙

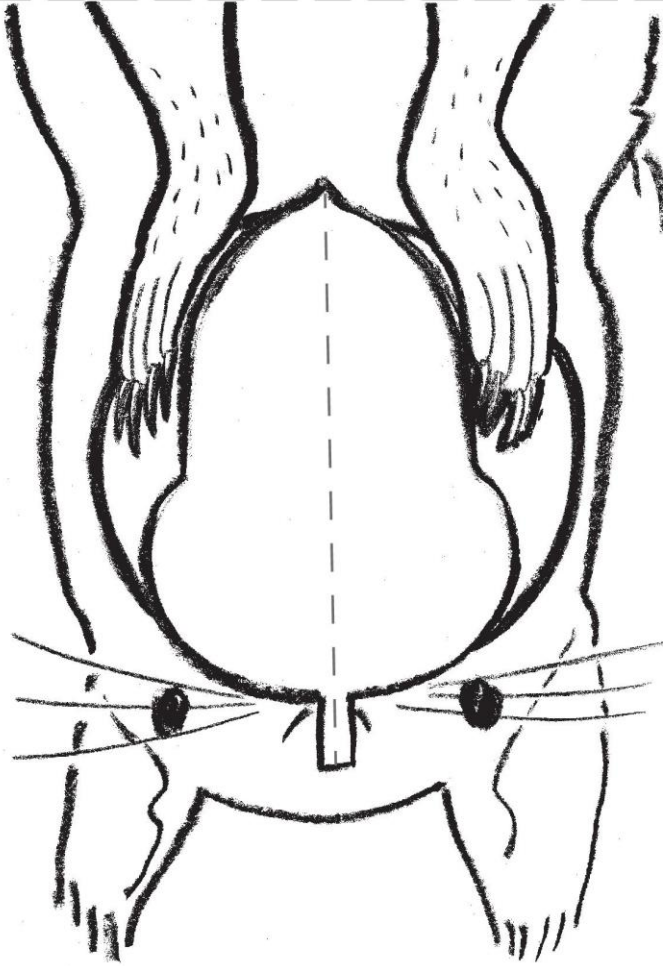
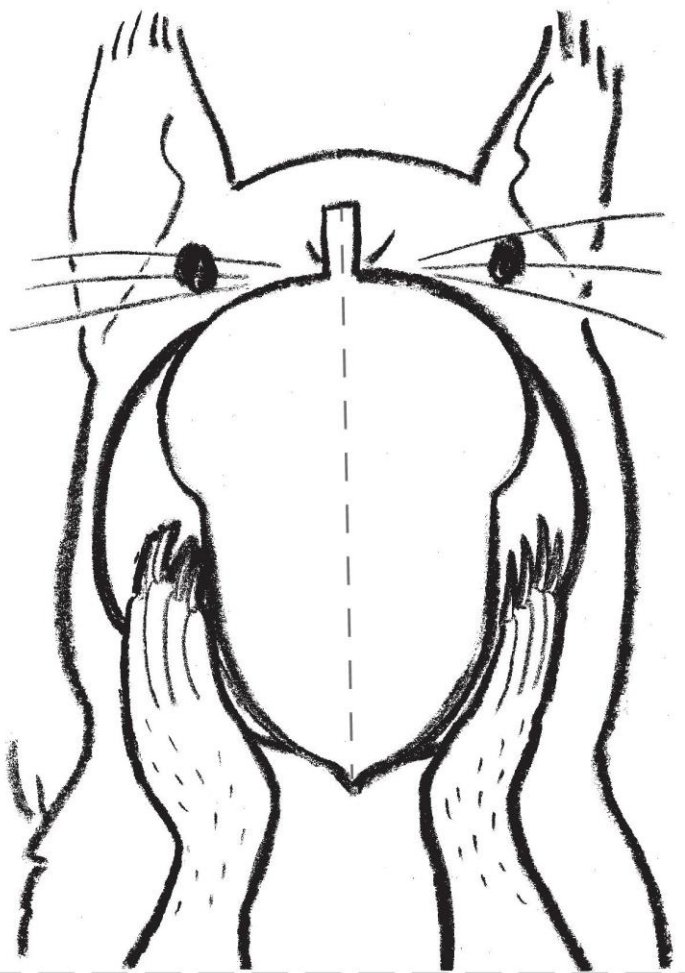
葉のステンドグラス台紙「四角」

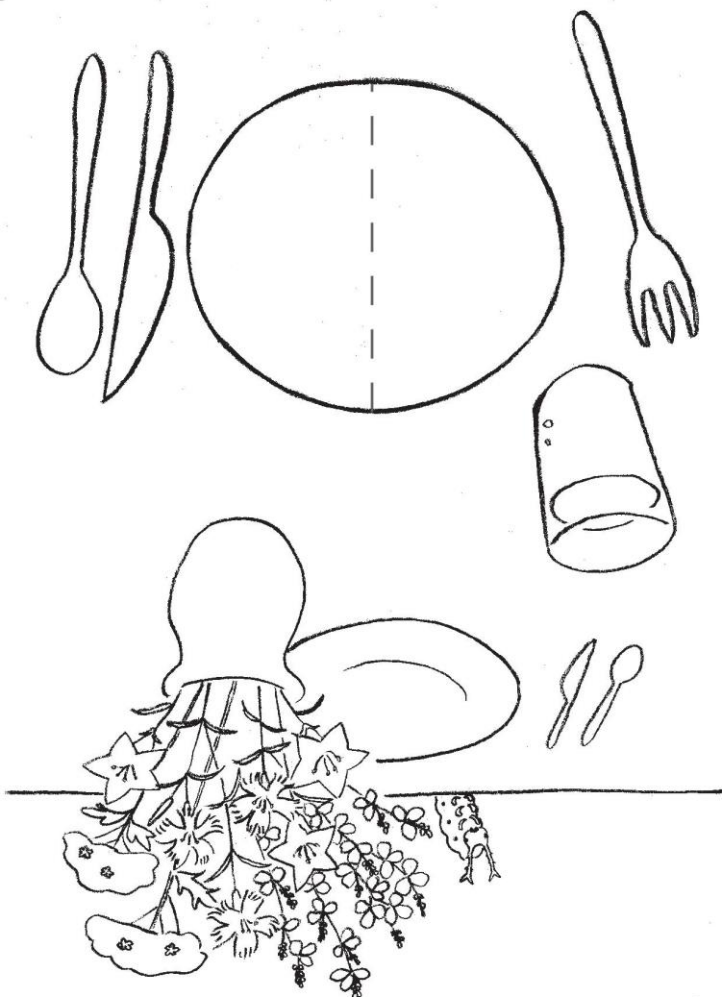
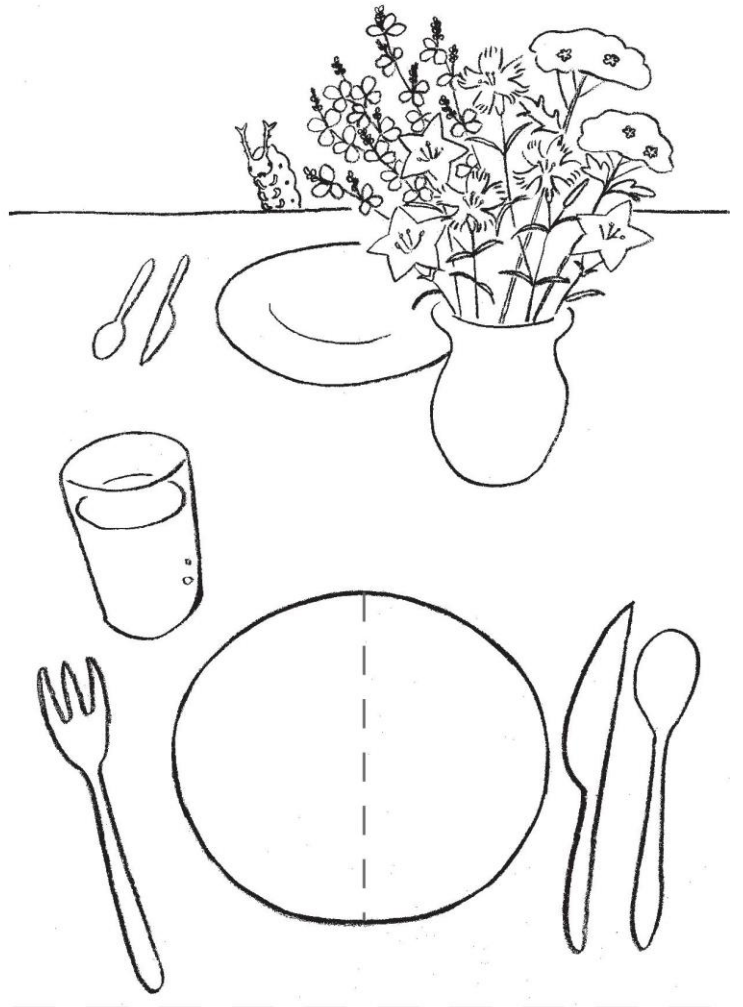


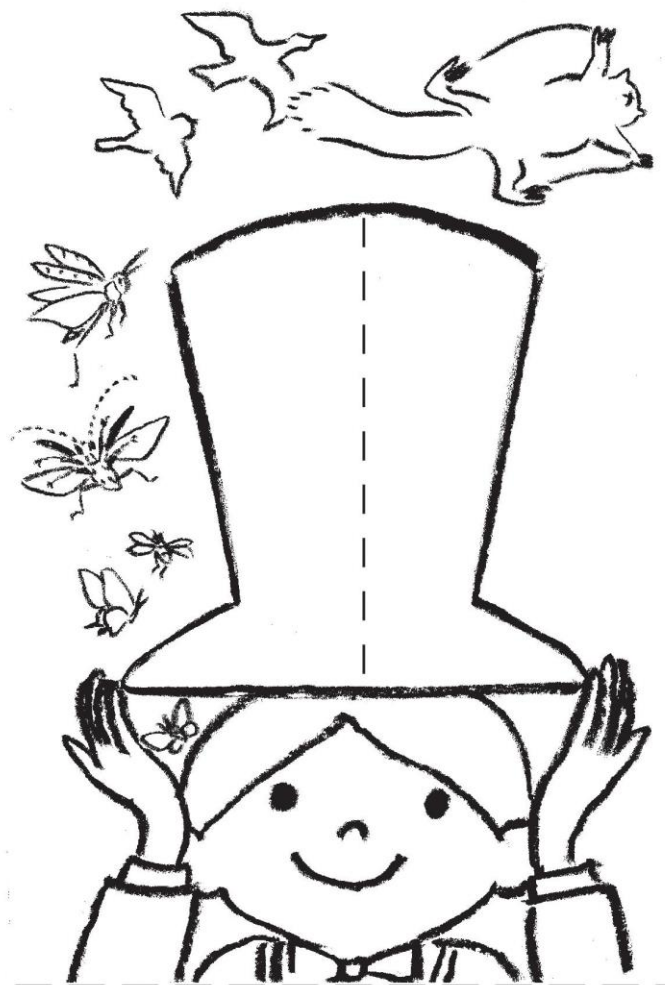
葉のステンドグラス台紙「とんぼ」

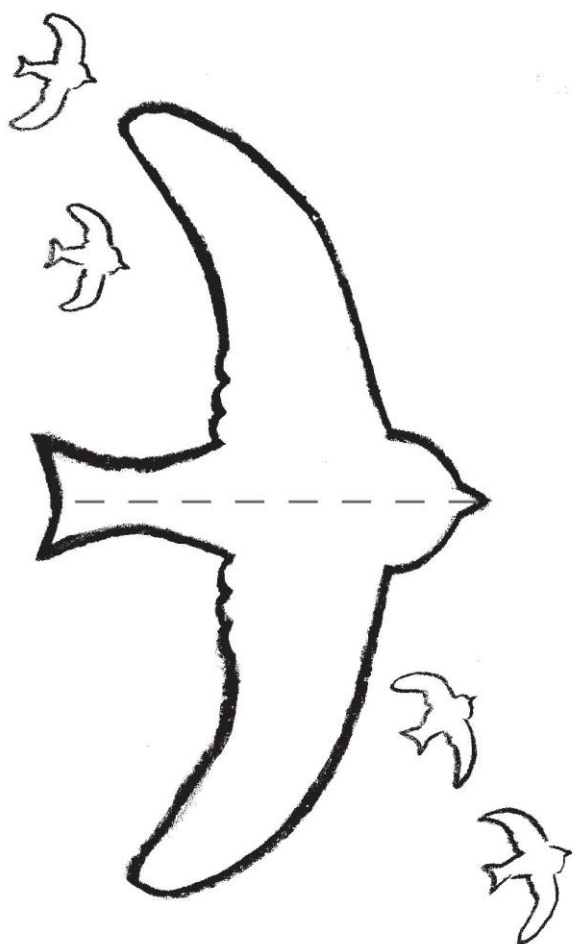
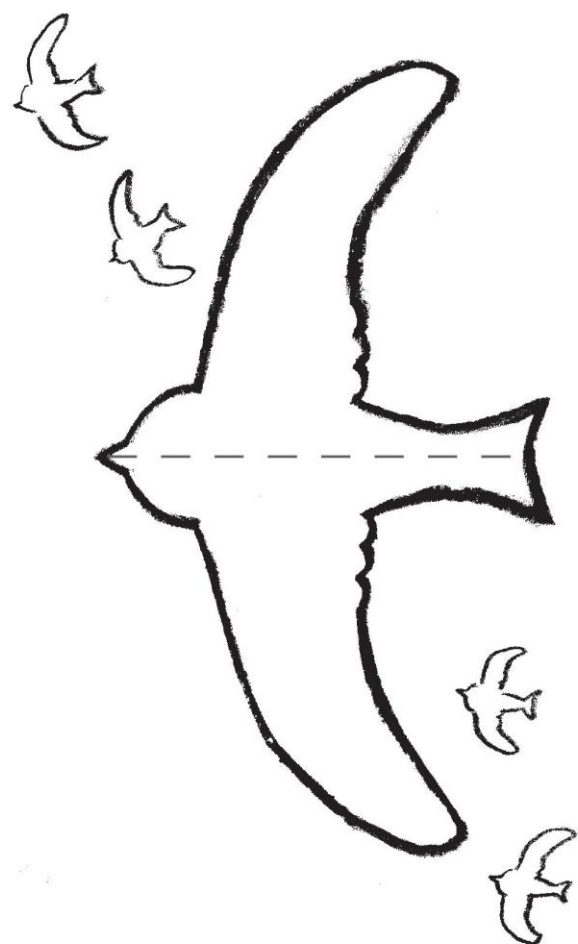


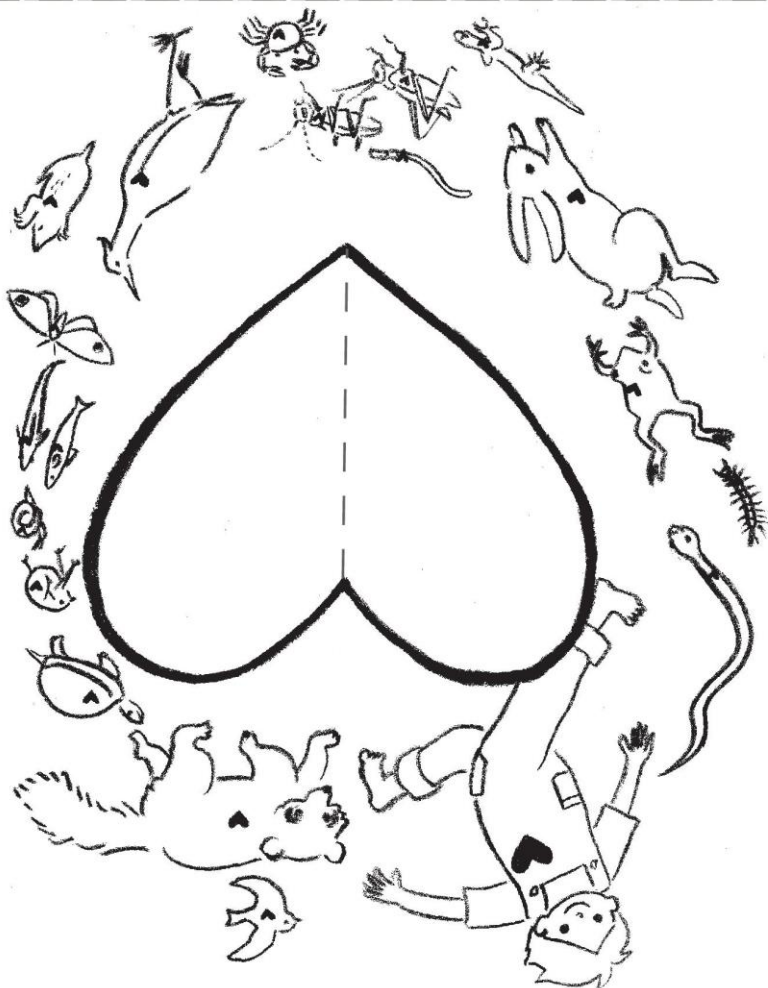
No. 21 「葉のカードづくり」台紙型紙

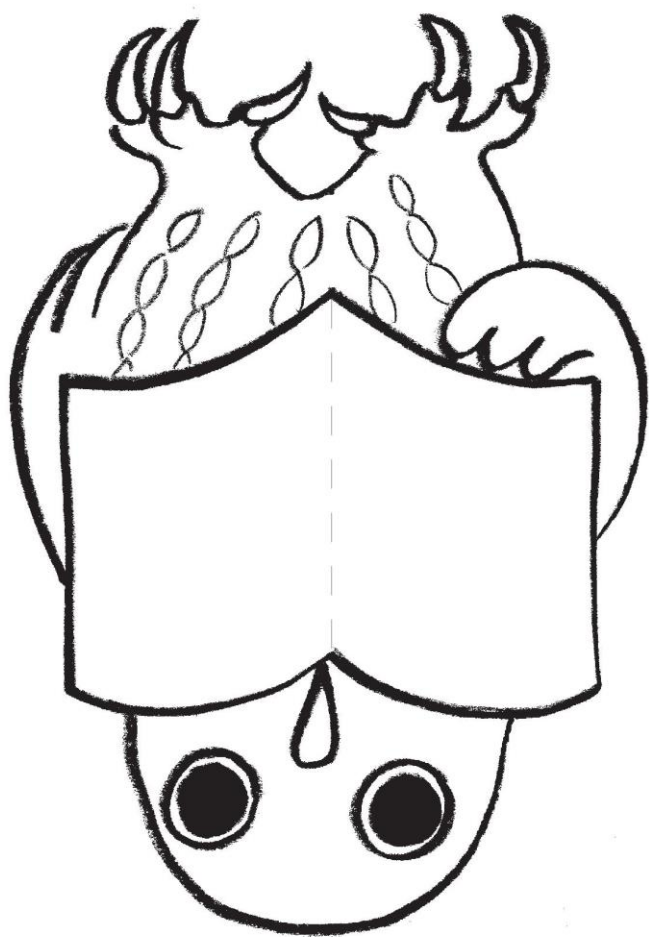
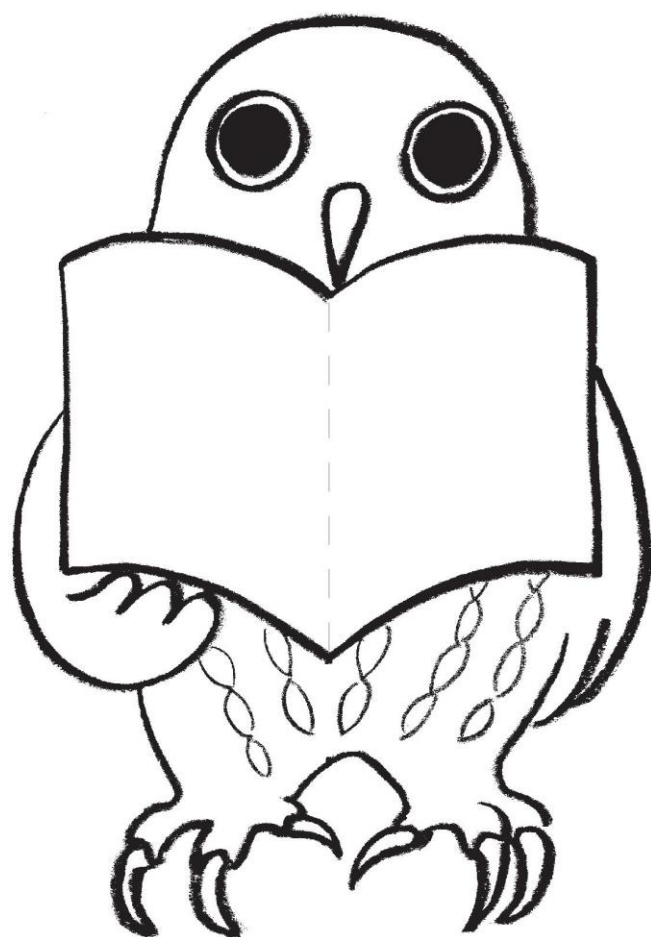










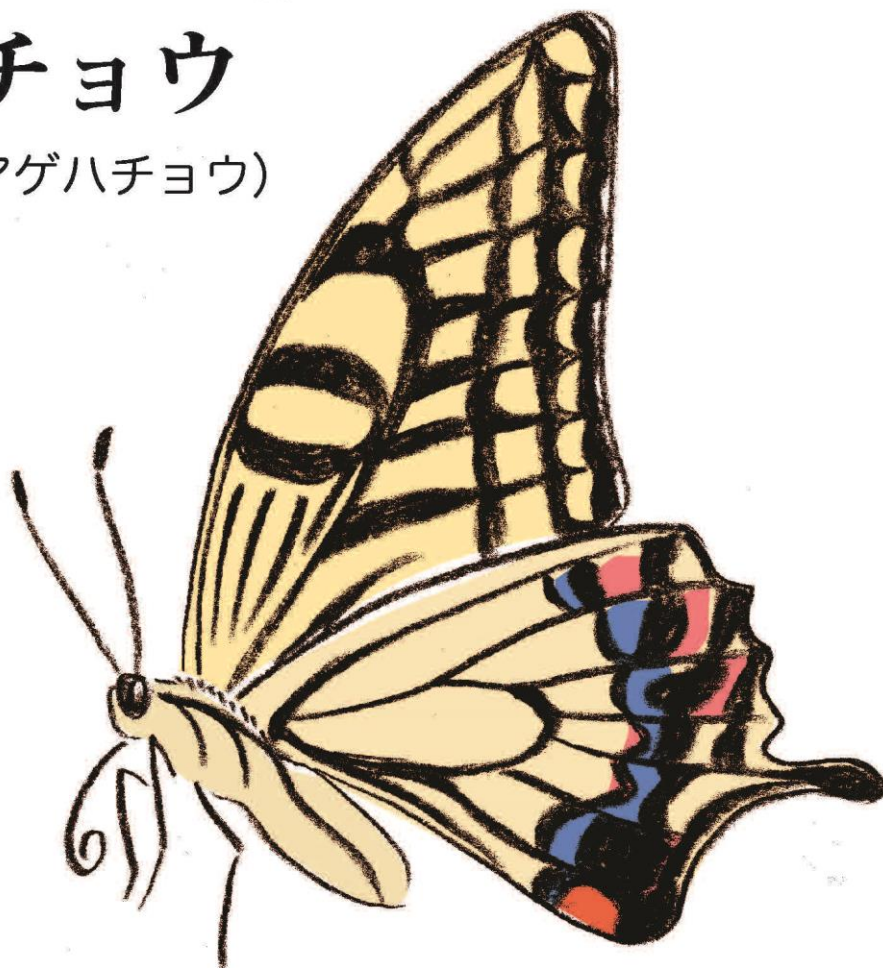


No. 23 「ネイチャーゲーム 私は誰でしょう」 動物カード

1 チョウ

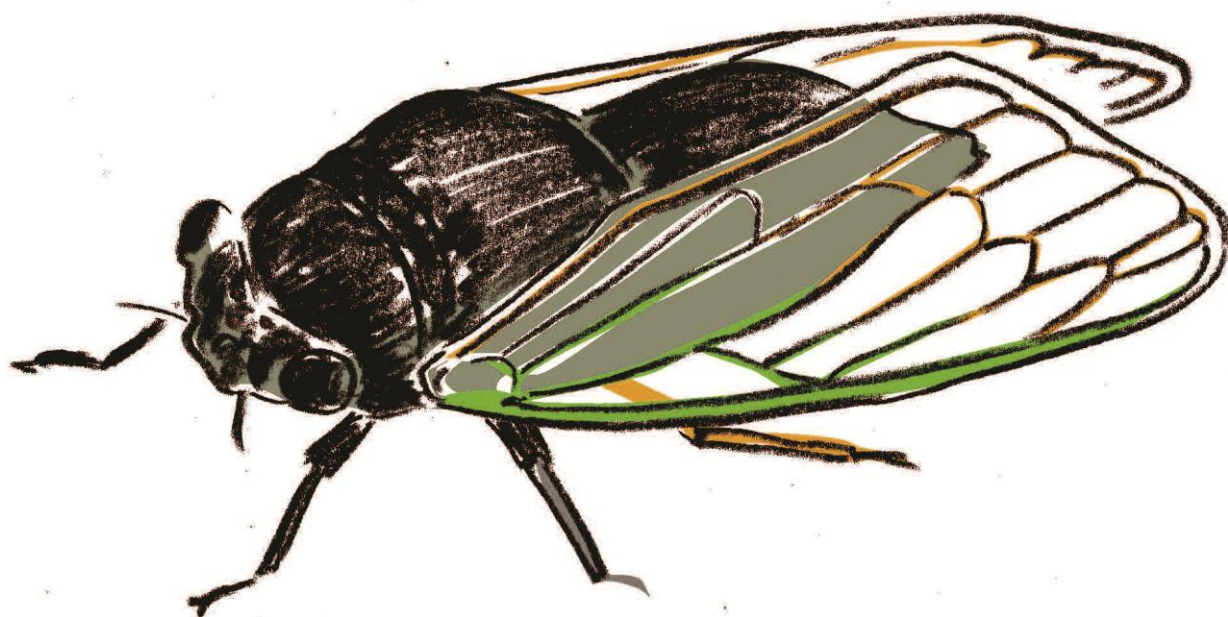
(アゲハチョウ)

昆虫



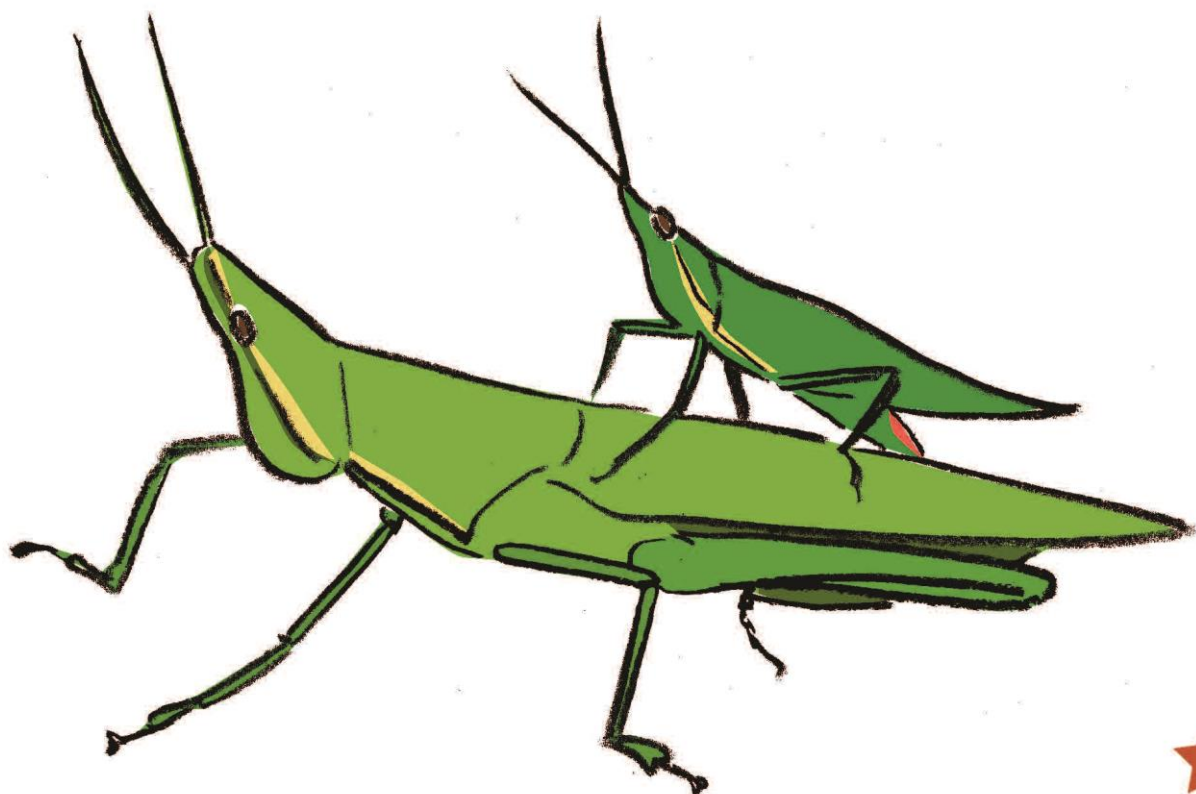
2 セミ (クマゼミ)

昆虫



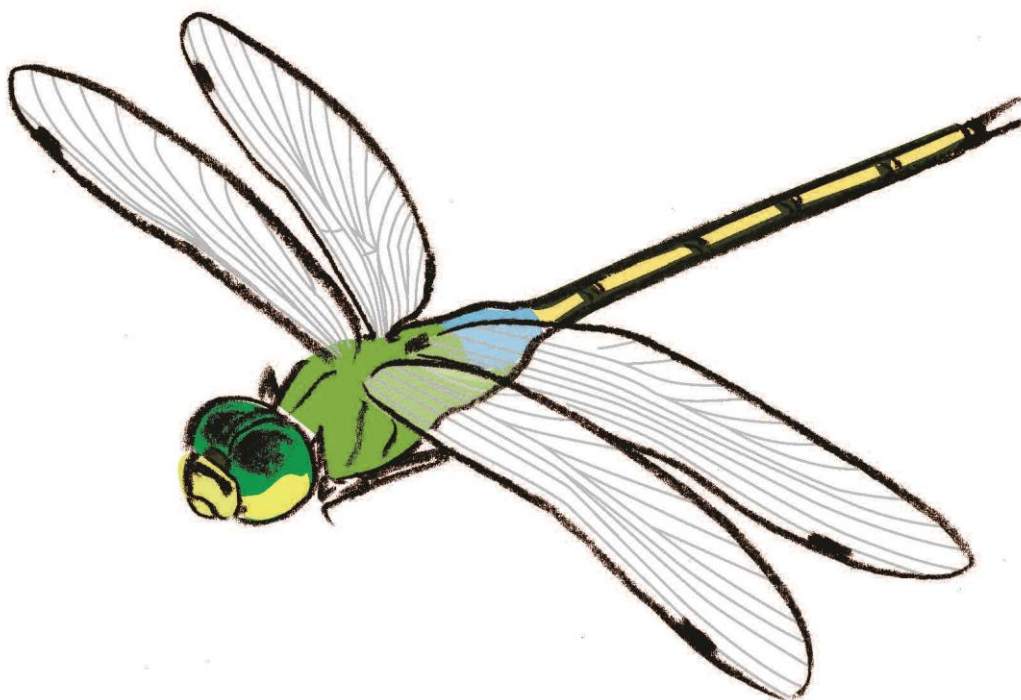
3 バッタ (オンブバッタ)

昆虫



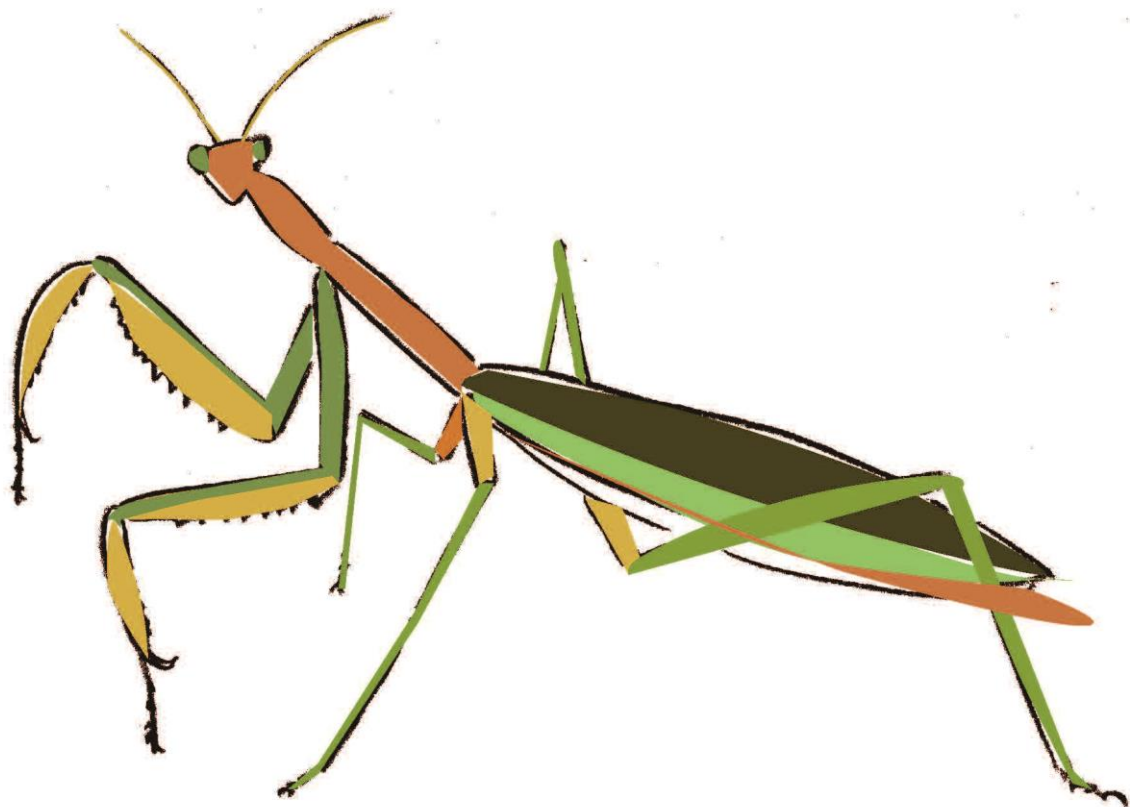
4 トンボ (ギンヤンマ)

昆虫



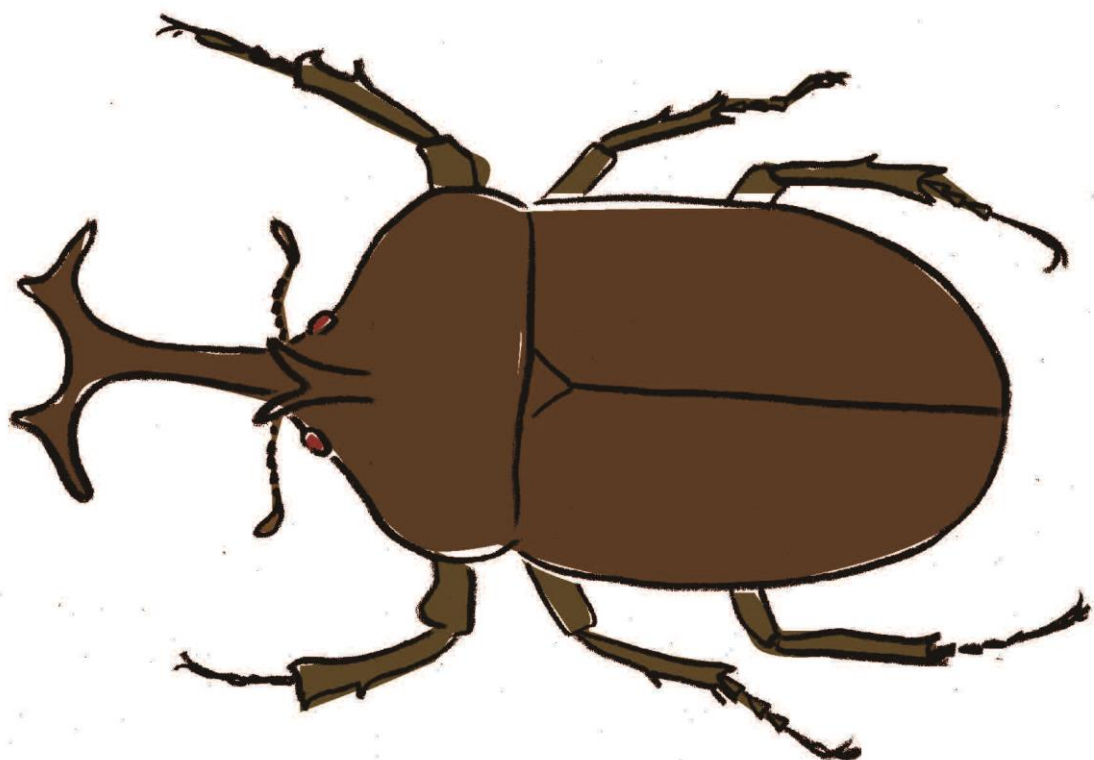
5 カマキリ (オオカマキリ)

昆虫



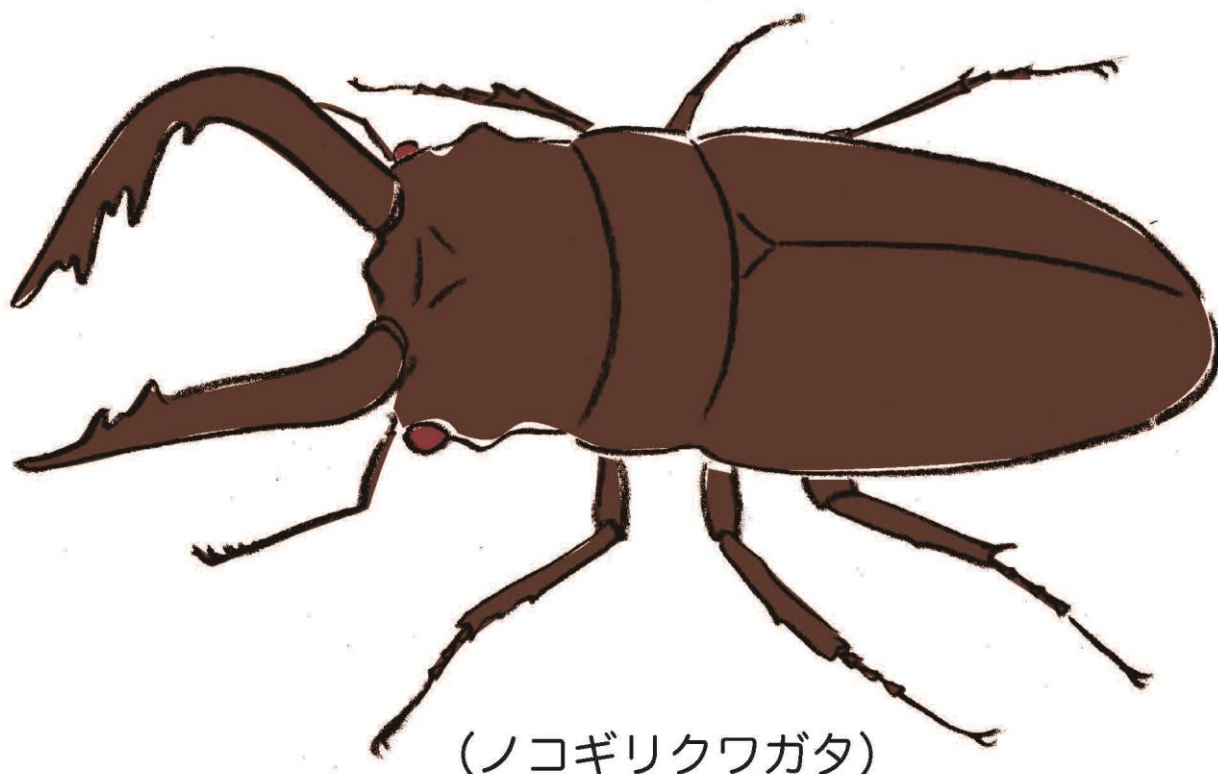
6 カブトムシ

昆虫



7 クワガタムシ

昆虫

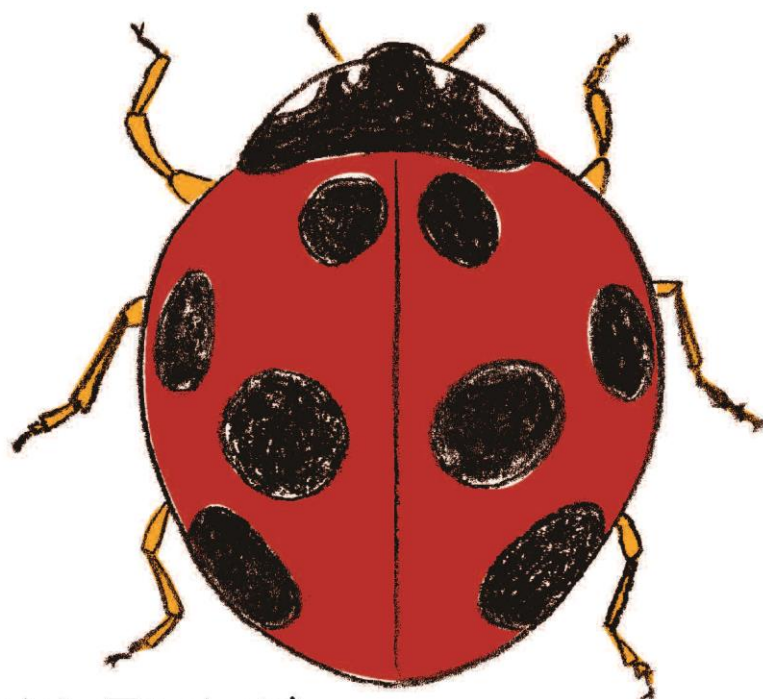


(ノコギリクワガタ)



8 テントウムシ

昆虫

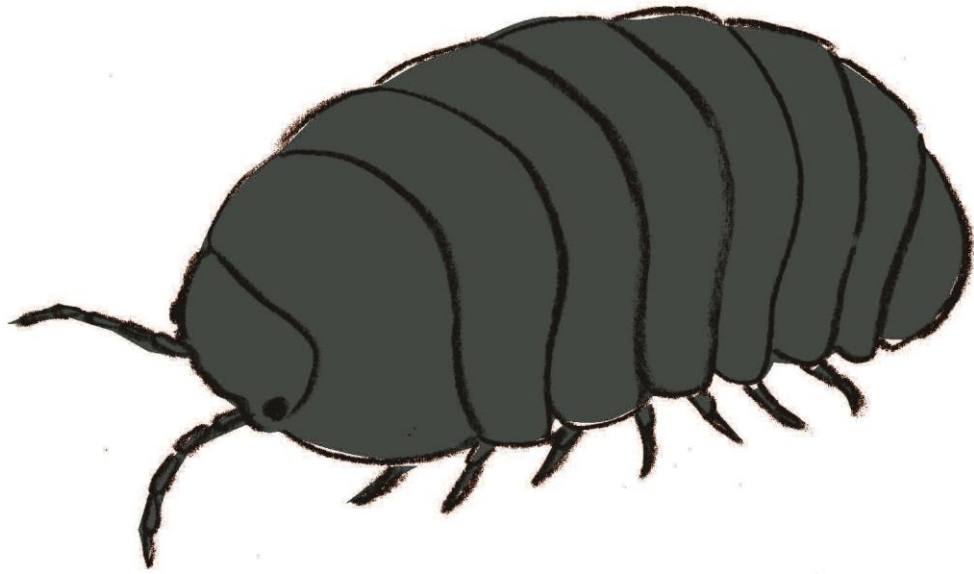


(ナナホシテントウ)



9 ダンゴムシ

甲殻亜門



(オカダンゴムシ)



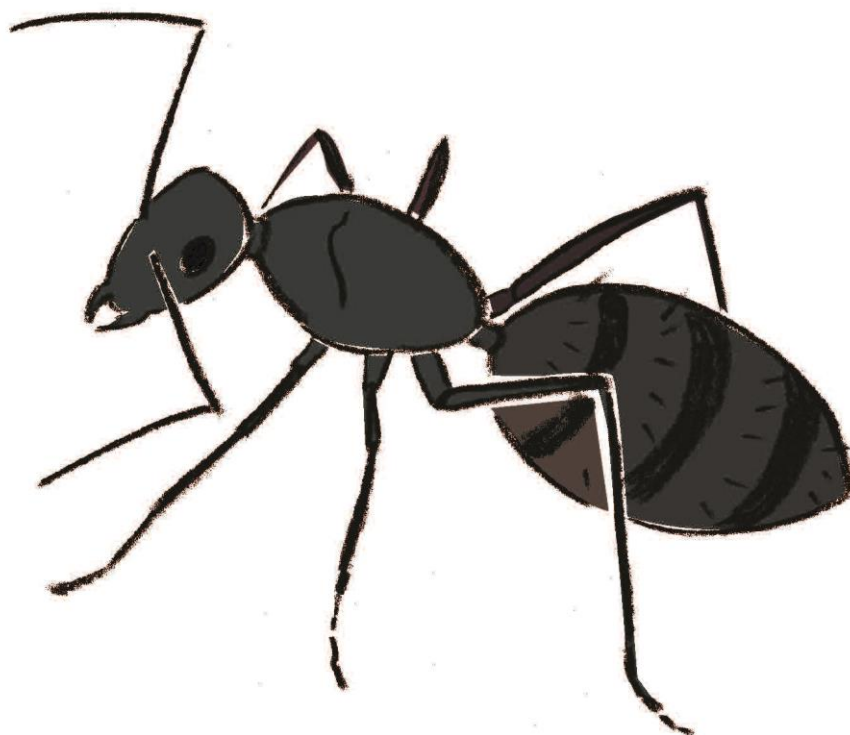
10 ハチ (ニホンミツバチ)

昆虫



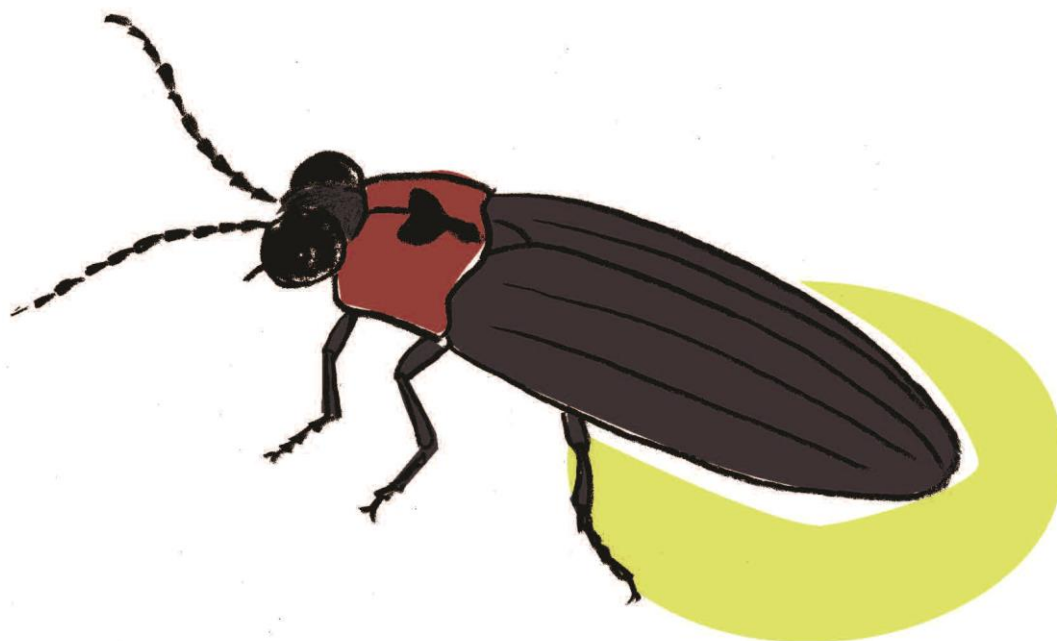
11 アリ (クロオオアリ)

昆虫



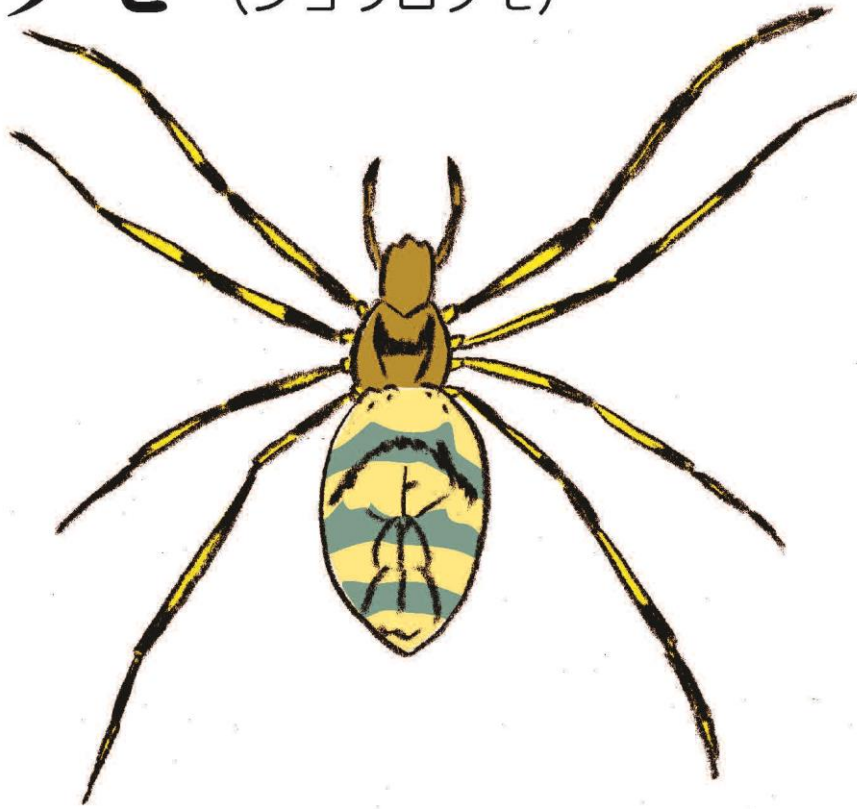
12 ホタル (ゲンジボタル)

昆虫



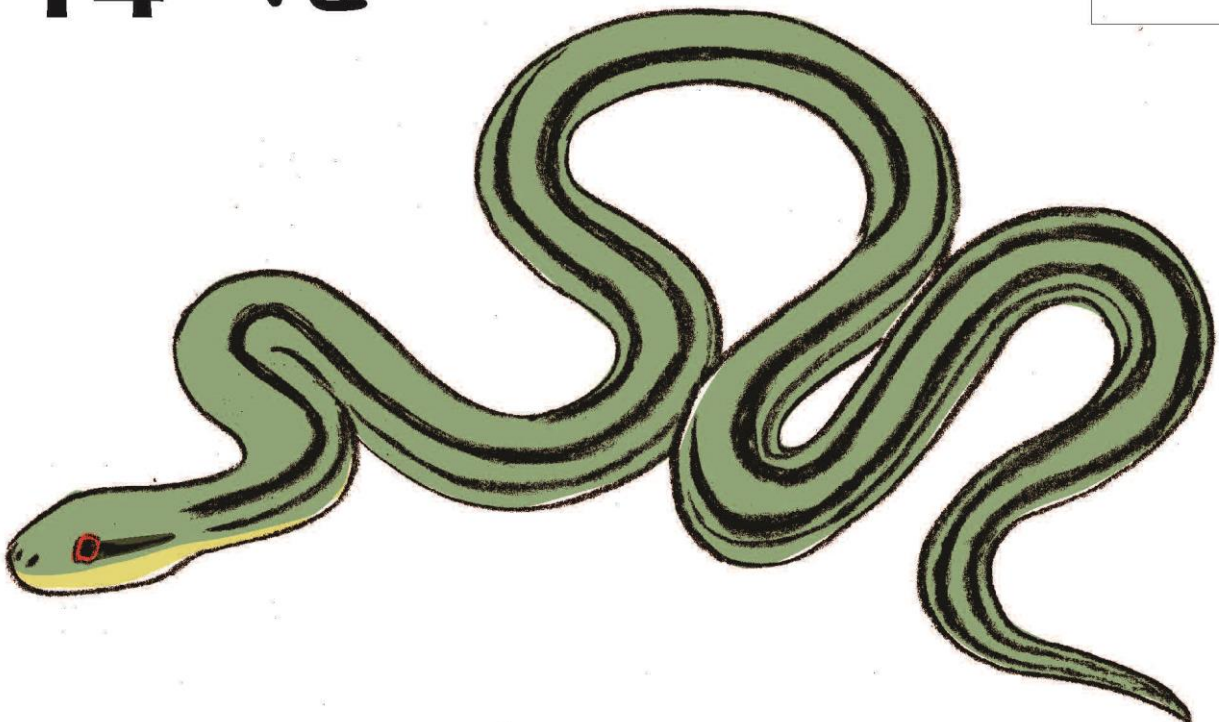
13 クモ (ジョウログモ)

クモ状網



14 ヘビ

は虫類

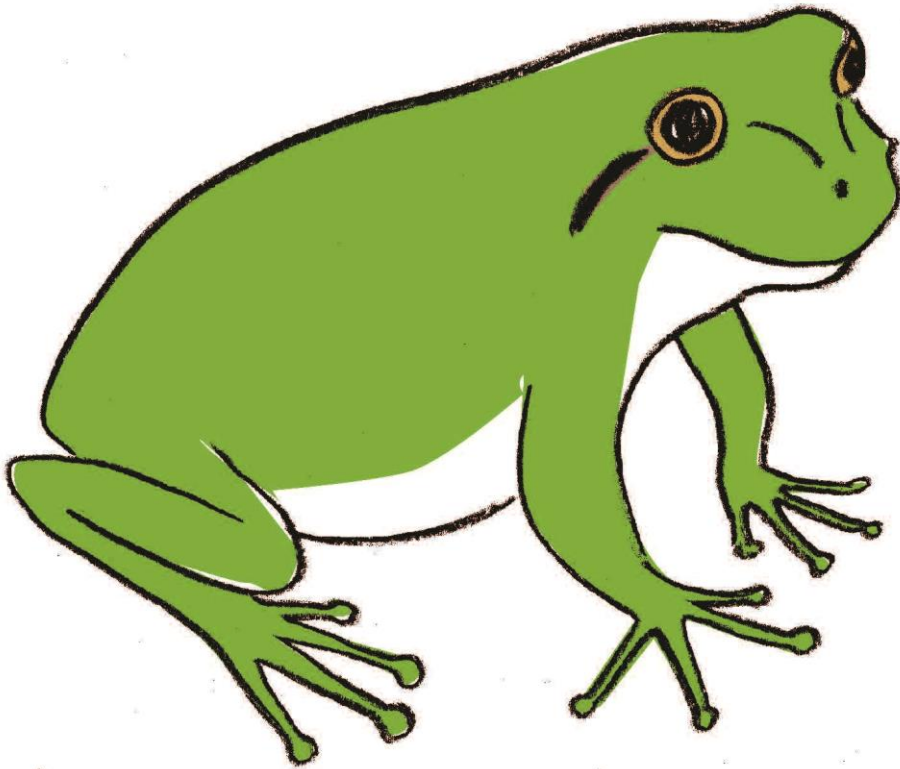


(シマヘビ)



15 カエル (アマガエル)

両生類



16 クマ

ほ乳類

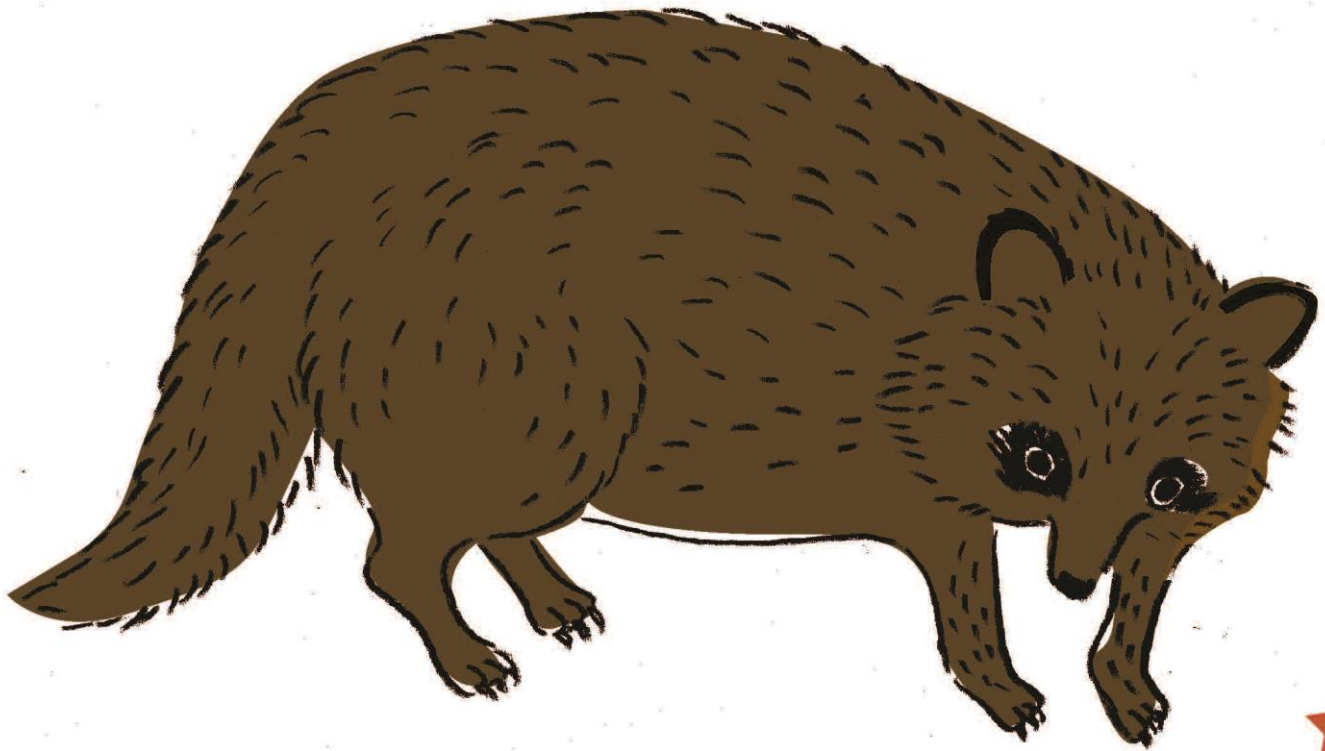


(ツキノワグマ)



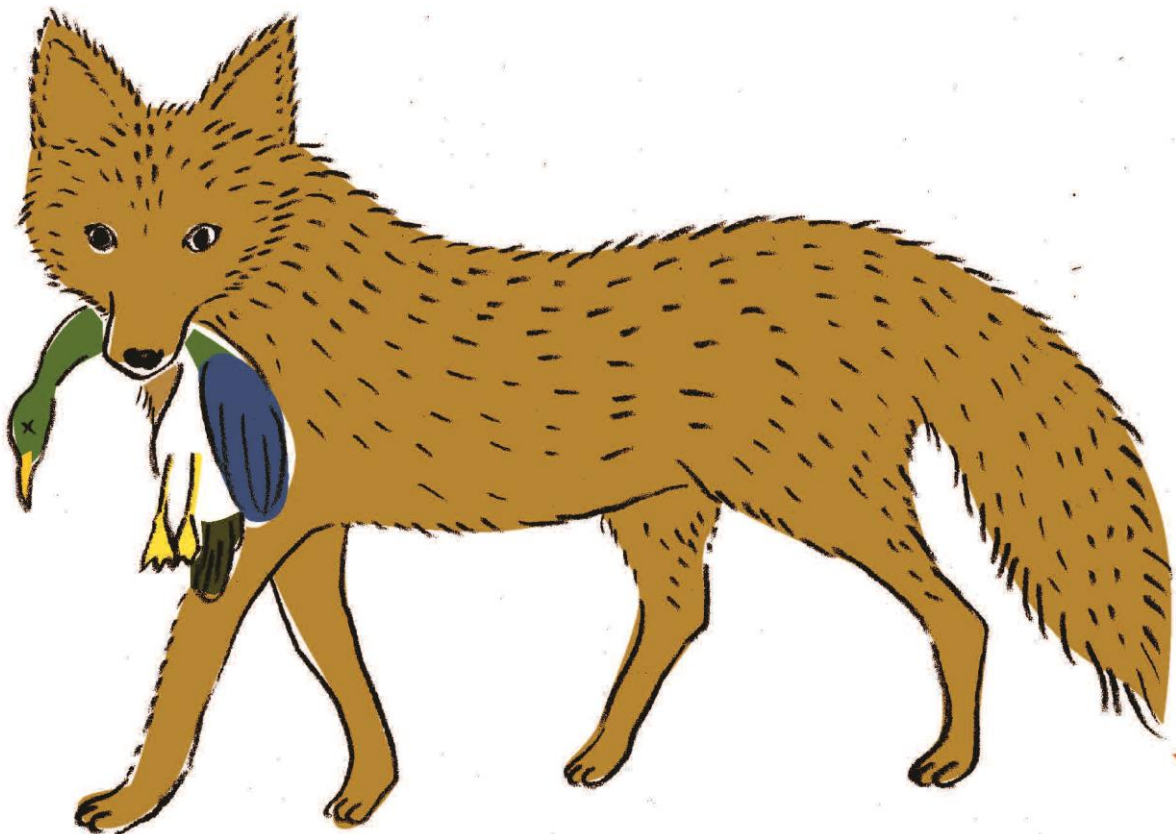
17 タヌキ (ホンドタヌキ)

ほ乳類



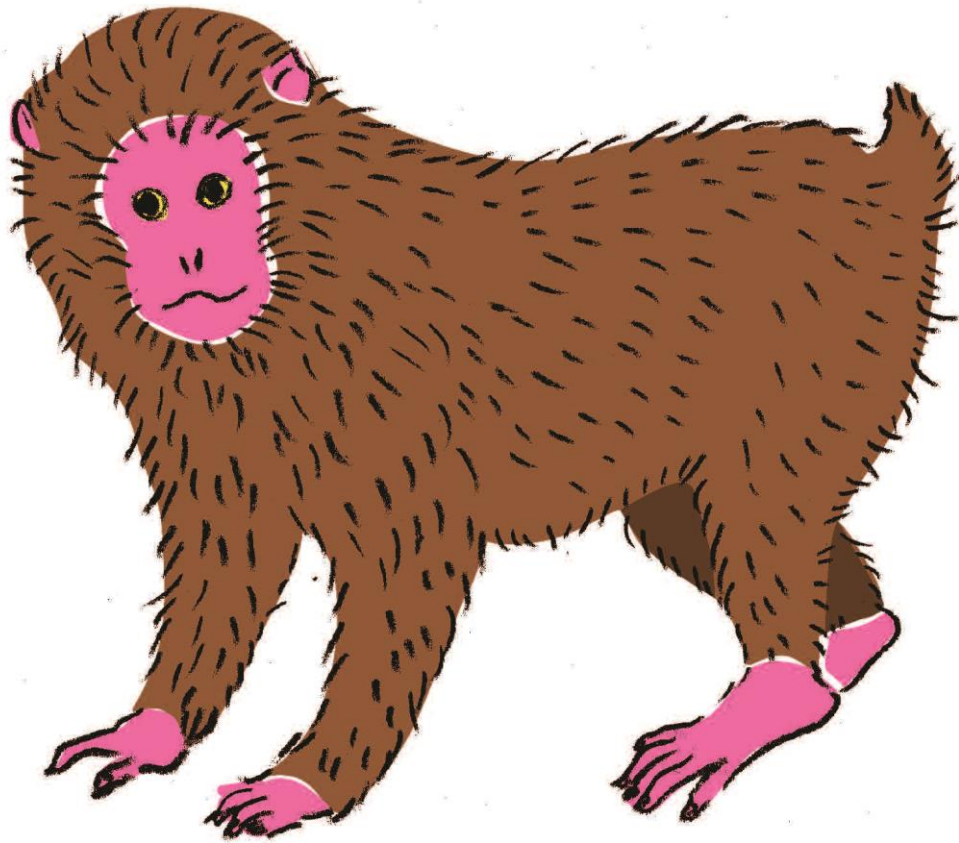
18 キツネ (ホンドキツネ)

ほ乳類



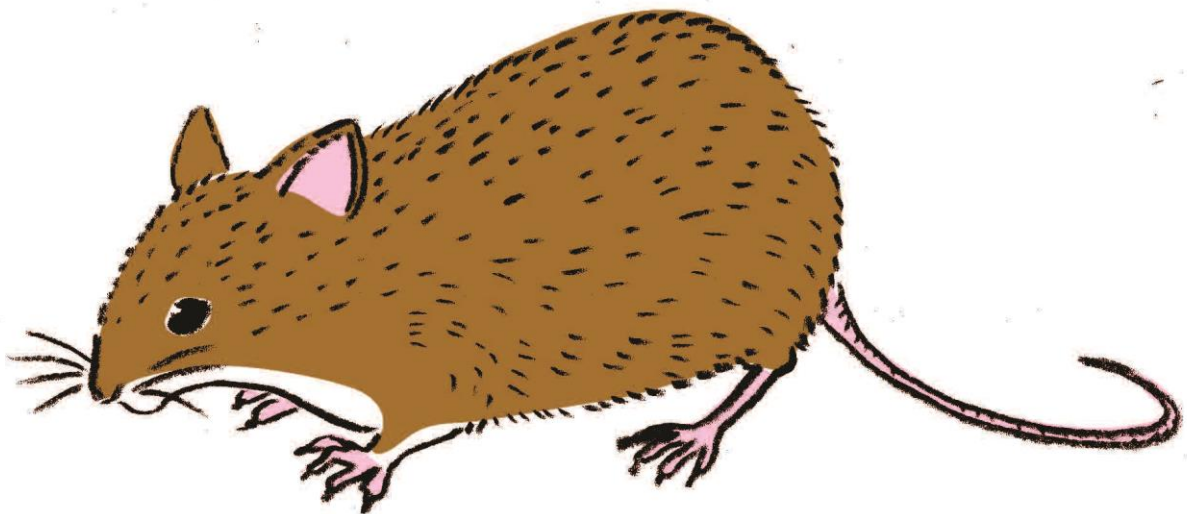
19 サル (ニホンザル)

ほ乳類



20 ネズミ (アカネズミ)

ほ乳類



21 リス

ほ乳類

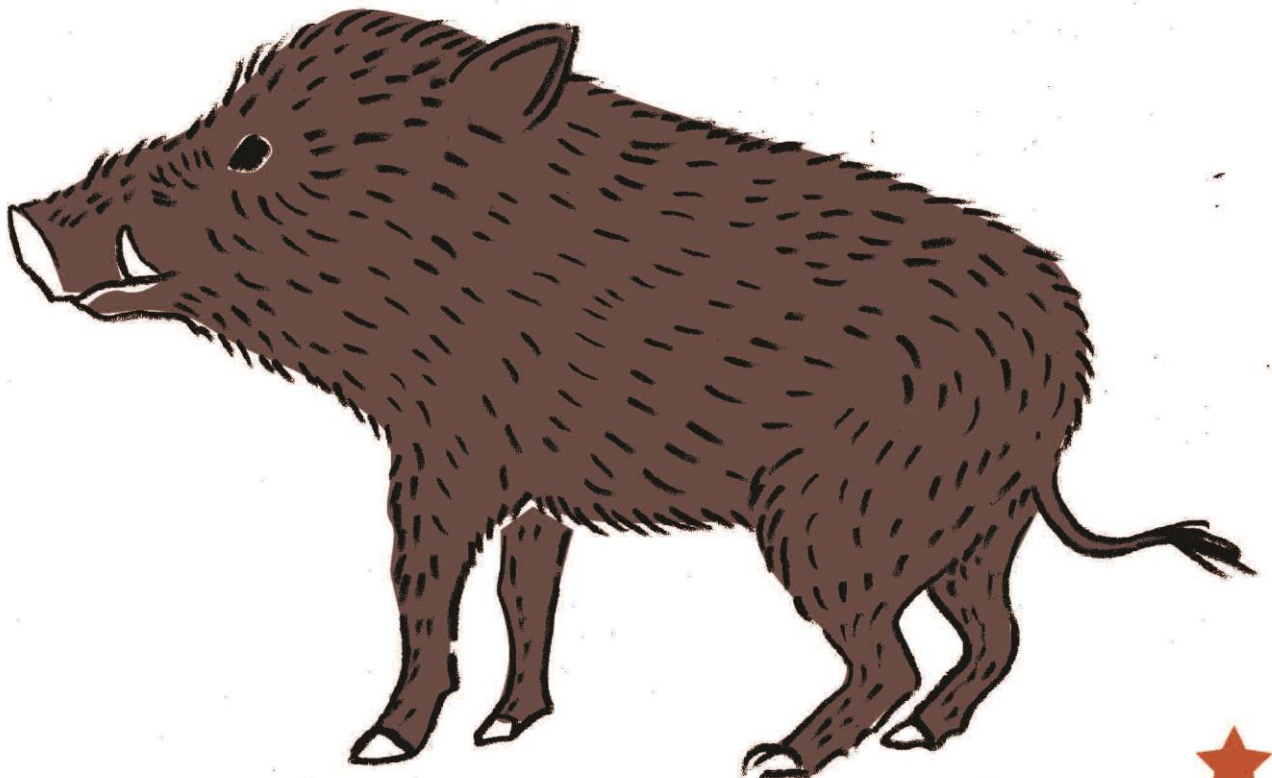


(ニホンリス)



22 イノシシ

ほ乳類



23 シカ (ニホンジカ)

ほ乳類



24 ウサギ (ノウサギ)

ほ乳類



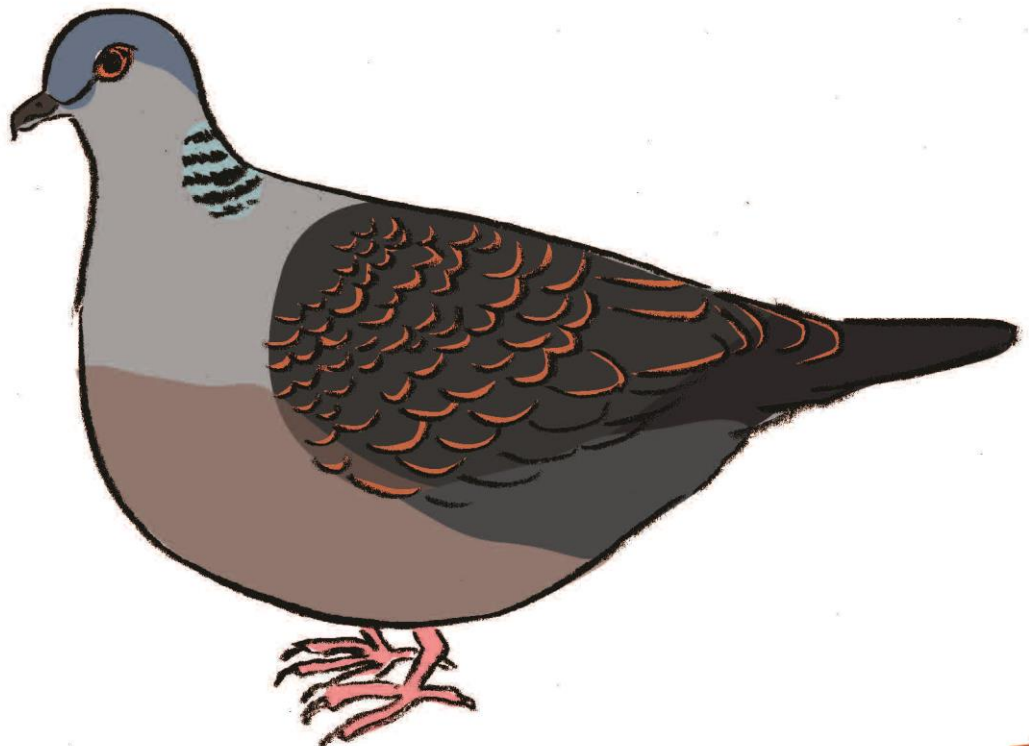
25 フクロウ

鳥類



26 ハト (キジバト)

鳥類



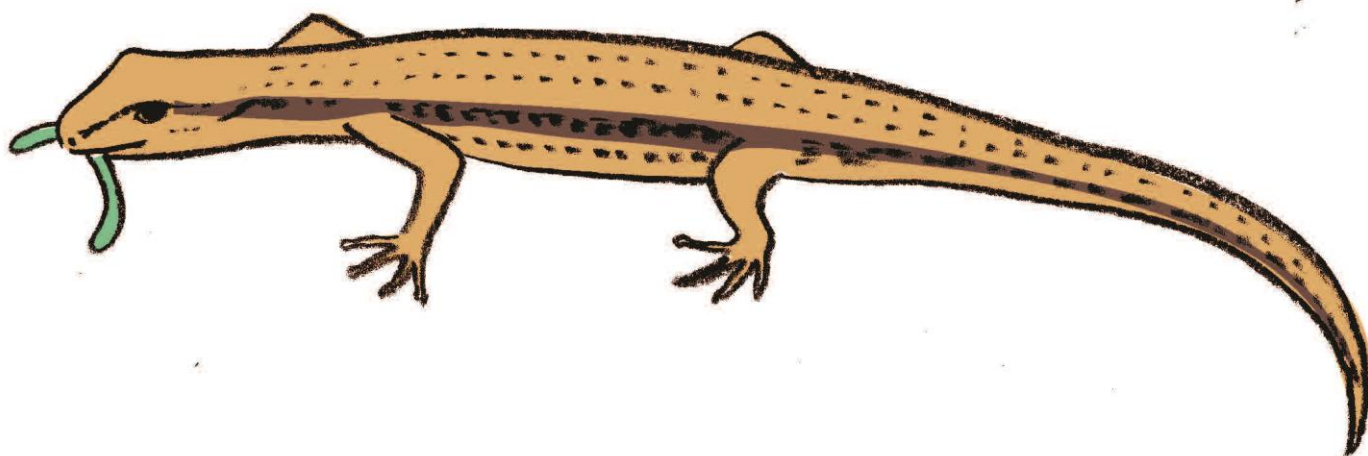
27 カラス (ハシボソガラス)

鳥類



28 トカゲ (カナヘビ)

は虫類



29 モグラ (コウベモグラ)

ほ乳類



30 タカ

鳥類

(チョウゲンボウ)



31 コウモリ

ほ乳類

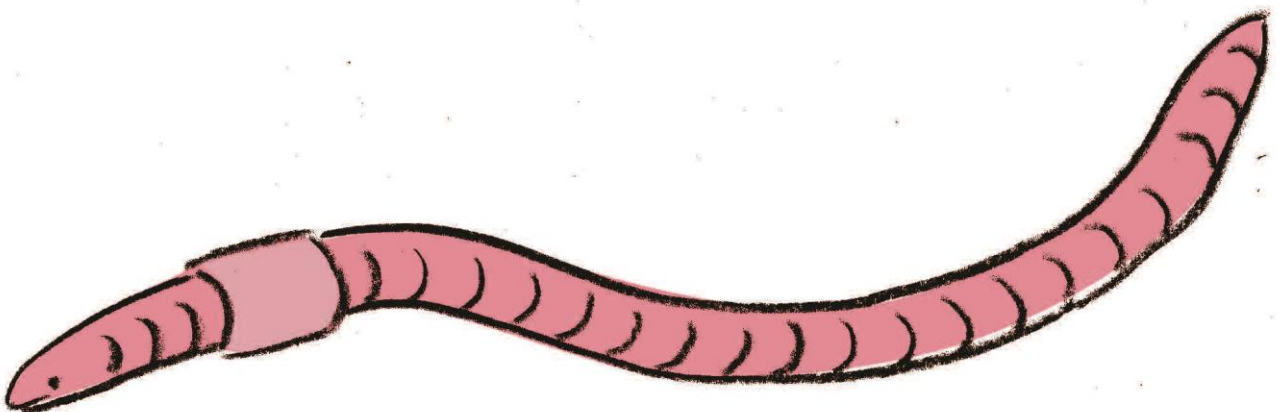


(ユビナガコウモリ)



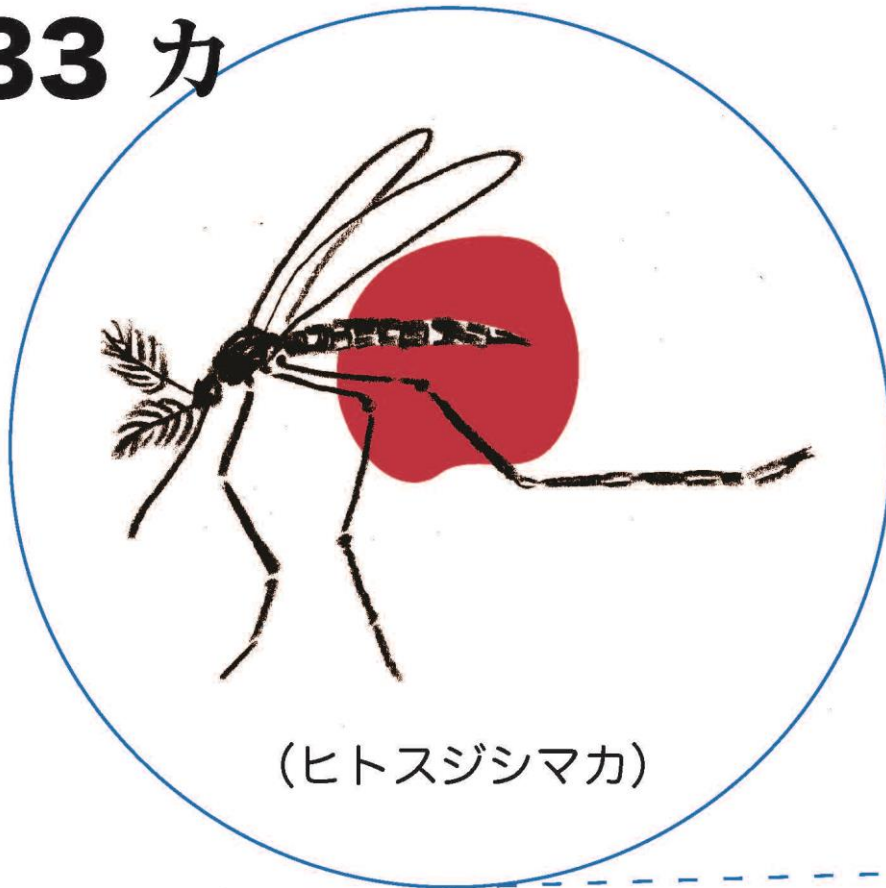
32 ミミズ

環形動物門



33 カ

昆虫

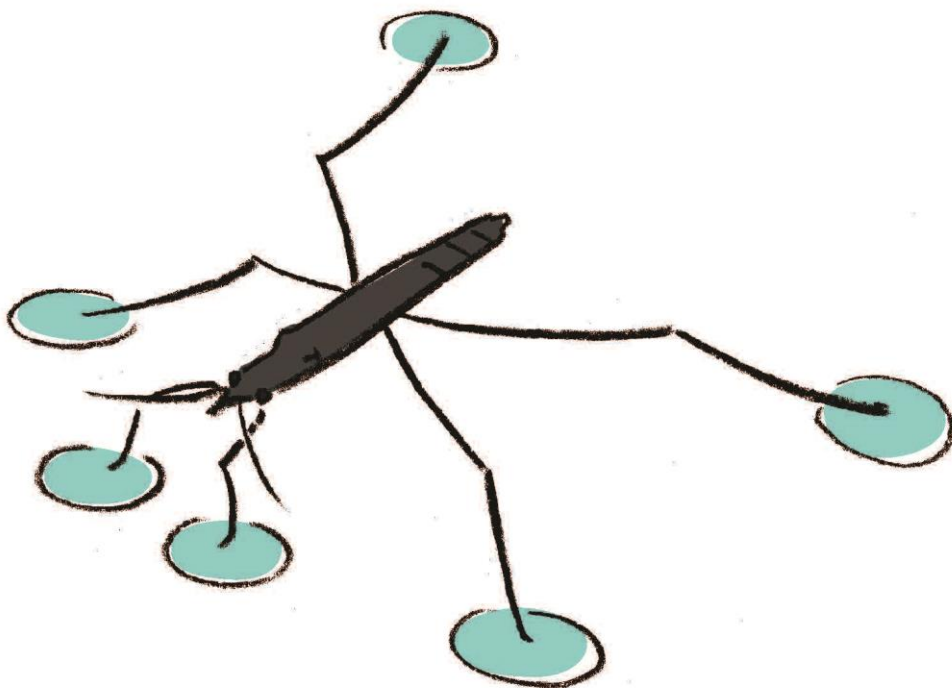


(ヒトスジシマカ)



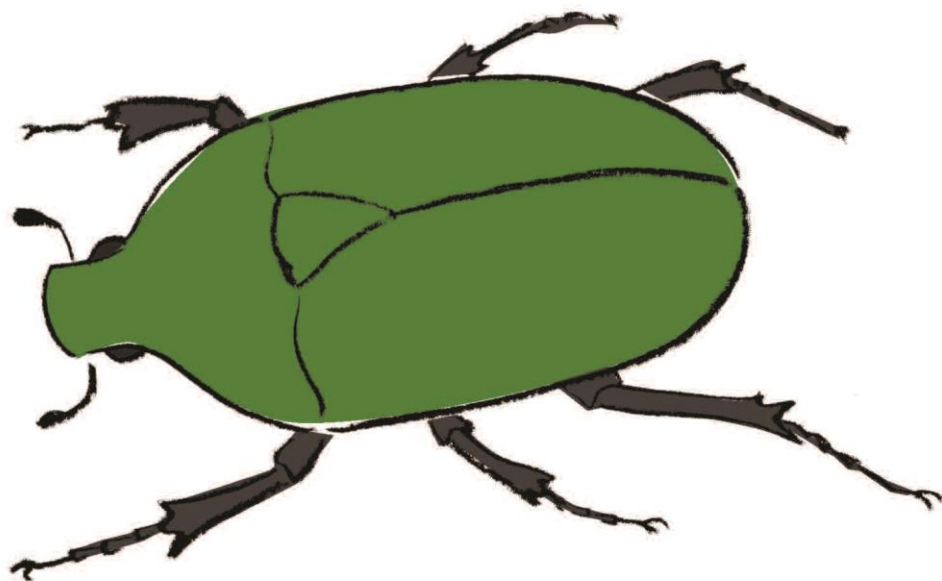
34 アメンボ

昆虫



35 カナブン

昆虫



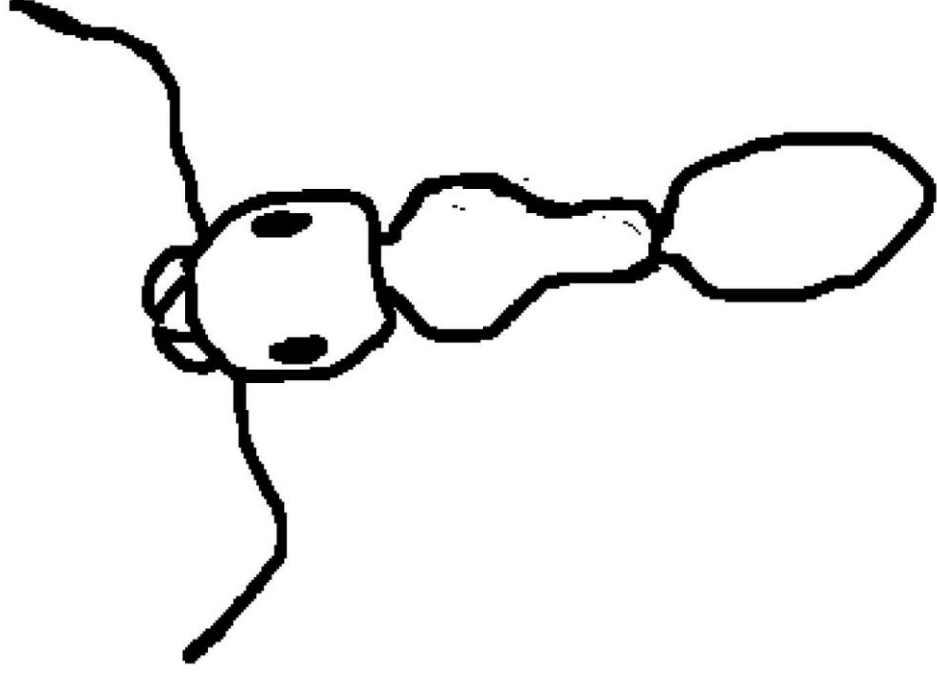
36 コオロギ (エンマコオロギ)

昆虫

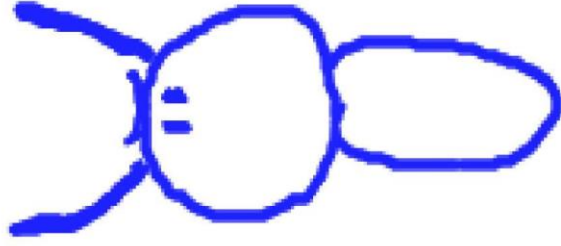


No. 24「生き物クイズ」 解答用紙

これはな〜んだ？



これはな〜んだ？



No. 25 「日本一大きな木を作ろう」 解説パネル

日本一 太い木

鹿児島県：蒲生のクスノキ

樹高 30m 根元周囲 24m



環境体験学習申込みフォーム

下記項目を記入し、FAX にて送信ください（FAX：06-6412-0500）

★学校名 （ ）

★学年 （ ）

★クラス数/人数 （ ） クラス （ ） 人

★希望日程 ※週の記入は必ず**別の週**を記入ください

雨天の場合の予備日もご記入ください。

表 1	月	週	週の中で実施可能な日にちを すべてご記入ください	予備日	備考
(記入例)	5 月	第 3 週	18 日、19 日、21 日	6/11・6/12・6/15	
第 1 希望					
第 2 希望					
第 3 希望					

★滞在時間 ： ～ ： または 約 時間

★下見希望日 (打ち合わせを兼ねて下見に来ていただきます。下見希望日が決まっている場合は、
表 2 へ第 2 希望までご記入ください)

表 2	月日	時間
第 1 希望		
第 2 希望		

※時間は 10：00～16：00 の間で設定ください（所要時間は 1 時間程度です）

★希望プログラム/ご意見/ご質問

★担当者様/連絡先

担当者様：

TEL：

FAX：

【発行元】

尼崎の森中央緑地パークセンター

〒660-0096 尼崎市扇町 33-4

TEL : 06-6412-1900

FAX : 06-6412-0500

E-mail : info_amamori@hyogopark.com

開館時間 9 : 00～17 : 00

休館日 年末年始 (12/29～1/3)

